



学校法人南山学園

2022 年度

事業計画書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

目 次

はじめに — 南山学園の基本方針と方向性 —	1
学園全体事業計画	10

設置校別事業計画

1. 南山大学	13
2. 南山高等学校・中学校	
(1) 男子部	17
(2) 女子部	23
3. 南山国際高等学校・中学校	29
4. 聖霊高等学校・中学校	33
5. 聖園女学院高等学校・中学校	37
6. 南山大学附属小学校	41
7. 聖園女学院附属聖園幼稚園	45
8. 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園	48

※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、各単位校の事業計画書に記載している内容から変更となる可能性がありますことを予めご承知おきください。

※ 各単位の項目に記載の★印は、別途作成している「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」において、5年間の間に取り組むこととしている計画として記載されている事項のうち、2022年度において取り組むものであることを示します。

はじめに — 南山学園の基本方針と方向性 —

南山学園は、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指します。この建学の理念を実現するために、ハンス ユーゲン・マルクス前理事長が、2016年4月1日に以下に掲げる基本方針を発表いたしました。この基本方針を継承し、南山学園の全構成員が一丸となって努力していくことを約束いたします。

学校法人 南山学園

理事長 市瀬 英昭

2016年4月1日

職員のみなさん

学校法人 南山学園

理事長 ハンス ユーゲン・マルクス

理事長基本方針

はじめに

教育の課題について、第二ヴァティカン公会議はカトリック教会の考えをこう解き明かしています。「青少年が身体的・道徳的・知的能力を調和のうちに発達させることができるよう援助しなければならない。また彼らが、絶えざる努力を持って自分の生活を正しく生き、勇気と忍耐をもって障害を克服しつつ、真の自由を身につけることによって、徐々により成熟した責任感を養うように援助しなければならない」（『キリスト教的教育に関する宣言』1）。また、「カトリック学校は、他の学校に劣らず、若者の教養と人間形成という目的を追求する」と確認した上で、「カトリック学校の特性は、自由と愛という福音の精神に満たされた雰囲気为学校共同体の中に作り出すことである」（同8）、と力説しています。

南山学園は、2016年4月の法人合併により、幼稚園から大学院までを擁することとなったカトリック系総合学園であり、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成を目指しています。キリスト教世界観の要は、一人ひとりの人

間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ、という考えです。この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の各学校はラテン語で Hominis Dignitati、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げています。

南山学園がカトリック系総合学園としての教育理念を達成するため、理事長として基本的な方向性を示したものが、この理事長基本方針です。2011年に日本の教育を取り巻く環境変化を踏まえた、新たな理事長基本方針を打ち出しましたが、その後の環境変化はさらに加速度を増しています。一方、南山学園自身も2016年4月1日に学校法人聖園学院との合併を行うなど大きく変化をしています。これらを踏まえ、新たな観点を加えた理事長方針が必要であるとの考えに至りました。

教育を取り巻く環境の変化

2005年の私立学校法改正では、学校法人のガバナンスについて、学校法人経営の観点から理事会、評議員会、監事の役割を定義するとともに、特に監事についてはその機能を強化しました。これ以降、文部科学省は学校法人のガバナンス強化を推進しています。2014年には中央教育審議会の大学分科会において「大学のガバナンス改革の推進について」と題する審議内容が発表され、これに基づいて同年に「学校教育法」の改正が行われました。

大学教育については、2012年に文部科学省から「大学改革実行プラン」が発表され、これに合わせる形で中央教育審議会から学士課程の質的転換を掲げた「大学教育の質的転換」と題する答申が出されました。

小学校・中学校・高等学校の学習指導要領は、「豊かな人間性」「健康・体力」「確かな学力」を総合した力である「生きる力」の育成という理念の下、基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視した改訂が行われ、2015年度で全ての学年に行き渡っています。

2014年12月には中央教育審議会から「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革」と題する答申が出されました。これを受ける形で2015年1月には文部科学大臣決定の「高大接続改革プラン」が公表され、センター試験に代わる新テストの検討、大学個別選抜方法の改革に加え、高校、大学における教育改革の施策内容とスケジュールが示されています。

南山学園の基本的な方向性

2011年4月1日付の理事長基本方針では、今後の南山学園の基本的な方向性として、「国際性の涵養」に係る取組みの充実と、「南山大学を中心とした、質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を最重要課題としています。これらについては継続して課

題とします。その実現に向けては、上記の環境変化への対応という観点からも大学がこれまで以上にけん引的役割を担うこととなりますが、その他の各単位校も主体的に臨むことが求められることは言うまでもありません。

今回の基本方針ではこれらに加え、継続する課題をより速く、より適切に実現させることを目的として理事会のガバナンス強化についても最重要課題に加えます。

【南山学園の最重要課題】

- ① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実
- ② 「質の高い学園内教育連携」の具現化
- ③ 「地域社会への貢献」の具現化
- ④ 理事会のガバナンス強化

上記①～③の実現のため、各単位校において、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討してください。その検討に基づき、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図るものとします。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを継続するものとします。

上記④の実現のため、理事会が適切なガバナンスを行うことができるよう、体制強化のための新たな組織・制度の構築を行うものとします。

各項目の詳細について、以下に述べます。

① 「国際性の涵養」に係る取組みの充実

南山学園の各単位校が、これからも地域はもちろん世界から高い評価・支持を獲得するためには、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行わなければなりません。世界のどこの地に行き、どのような人と交わるにしても、他者の尊厳を認め、偏見の無い精神で相互の理解と友情を育てることができる国際人の基礎を創ることこそ「国際性の涵養」を説く意図であり、「人間の尊厳のために」を教育モットーとする南山学園の「キリスト教世界観に基づく学校教育」が目指すものだからです。

「国際性」について、2011年の理事長方針作成時には「東海地区の他大学でも国際性を特色とした学部学科が設置され、小・中・高等学校でも国際性を特色とした取組みが実施されている」との認識でしたが、この傾向はさらに強くなっており、日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げています。このような状況の中、「国際性」について南山学園が他の学校（学園）との差異化を図っていくことは必須となっています。

日本の多くの学校が「国際化」「グローバル化」を掲げているという状況においても、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる「国際性の涵養」を意識した教育研究活動とは何なのかを各単位校において改めて検討し、その上ですでに取り組まれている国際教育・国際交流が、現在そして将来にわたって「特色あるもの」と言うにふさわしいかどうかの点検を行う必要があります。点検の結果、その特色がすでに色褪せている、あるいは他の大学、小・中・高等学校の取組みと差異化できない状態であるならば、相当の危機感をもって早急に教育研究活動の改革に乗り出す必要があります。「国際性の涵養」という教育理念を説く意図を十分に理解し、南山学園が行わなければならない、南山学園だからこそできる国際教育・国際交流の取組みを各単位校が責任を持って主体的に創りだしていくことを求めます。

1970年代当時の社会的要請に応える形で設立された南山国際高等学校・中学校は、帰国・外国人生徒教育という形で南山学園の国際教育の一環を担ってきましたが、一学校法人としての社会的な役割の観点、財政上の観点など総合的な判断の結果、2018年度から段階的に生徒募集を停止することとしました。日本社会における国際教育の課題の一つとして帰国・外国人児童生徒教育の問題は依然として存在しています。南山学園においては、南山国際高等学校・中学校のような特別な枠組みではない、「国際性の涵養」をより強く意識した教育研究活動を行っていくこととします。

② 「質の高い学園内教育連携」の具現化

前回の基本方針発表以降、南山学園には新たな変化が生じています。2016年4月1日に学校法人聖園学院との法人合併を行い、聖園女学院高等学校・中学校、聖園女学院附属聖園幼稚園、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園が加わりました。また、南山大学は名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスを統合し、「One Campus Many Skills」を掲げ、改革を進めています。すでに述べたように南山国際高等学校・中学校は2018年度から段階的に生徒募集の停止を行うこととしました。南山学園はその構成を大きく変えようとしており、そこには新たな学園内教育連携が必要となっています。

「質の高い学園内教育連携」を追究するにあたっては、就学前・初等・中等・高等教育それぞれを終えた卒業生が、様々なフィールドで活躍し貢献する際に南山学園で学んだ成果を十分に発揮できるかが重要となります。それを可能にするものが各単位校間の緊密な連携と相互協力であり、その中心となるのが南山大学です。しかし南山大学のみならず各単位校のすべてが主体的な姿勢で臨むことも必要です。連携を考える場合、一般的には縦のつながりが考えられますが、横のつながりもあることを忘れてはいけません。例えば、高等学校・中学校間においては、教員の見識を広げ専門性を高めるために、一定の人数・期間による人事交流の機会を設けることに加え、教育課程（カリキュラム）を通して生徒の交流を行うことが必要です。また縦の連携については、特に学園内での進学とい

う観点から、小学校・各中学校間および高等学校・大学間における緊密な連携、情報交換が必要となります。

さらに、南山学園で学んだ成果を南山学園全体にもフィードバックさせるという観点から、各学校の同窓会との連携も学園内教育連携の重要な一環です。同窓会の各学校への期待をくみとり、また、同窓会が持つ社会との多様なネットワークを活用することで、南山学園での教育効果をより一層広げていくことが期待できます。

③ 「地域社会への貢献」の具現化

南山学園は教育理念の一つとして「地域社会への奉仕」を掲げています。企業の社会的責任が大きく取り上げられていますが、教育機関も例外ではなく、むしろ企業以上に社会的責任が問われる存在とも言えます。

南山学園ではこれまでも確かな学力と豊かな人間力を身につけ、地域社会のために責任を持ち貢献していくことができる人材の育成を実践してきましたが、日々社会からの期待、要求に対して教育研究活動を通して説明責任を果たしていかなければなりません。すでに、南山大学においては、実務分野との関連性の深い各学部、研究科（理工学研究科、法務研究科、人間関係研究科教育ファシリテーション専攻など）を中心に、産学連携事業を通じて産業界の要望と本学の知識・技術を有機的に結びつけ、より一層高度な専門知識やスキルを身に付けた人材を育成しています。さらに、南山エクステンション・カレッジでは、これまでも生涯学習の場として多くの人々のニーズに合った学びの機会を提供しています。その他にも、例えば、児童・生徒・学生が主体となるボランティアを始めとした奉仕活動を挙げるすることができます。

これらの活動を通して、恒常的に地域社会との教育連携に取り組むことを意識し、活性化しなければなりません。就学前・初等・中等・高等教育に応じてその連携活動の内容も様々ではありますが、各単位校がこれまで以上に積極的に取り組むことで、南山学園全体が社会に貢献し、社会から得られる信頼を糧にして、より質の高い教育を実践することを期待しています。

④ 理事会のガバナンス強化

「国際性の涵養」に係る取組みの充実、「質の高い学園内教育連携」「地域社会への貢献」の具現化を行っていくためには、各単位校独自の努力だけではなく、南山学園としての取組みが必要となります。理事会がリーダーシップを発揮し、各単位校をリードしてだけでなく、各単位校の意思決定は適正か、その決定過程に問題はないか、意思決定されたことが適切に処理されているか、各単位校においてコンプライアンス上の問題はないか、等々のチェック機能も果たさなければなりません。

これらを実行し、南山学園の取組みをより高いレベルのものとするためには、理事会のガバナンス機能をこれまで以上に強化していく必要があります。南山学園は、学園理事会、学内理事会、常務理事会ときめ細やかな理事会運営を行うことにより、これまでも意思決定という点に関しては一定の役割を果たしてきていると評価しています。チェック機能に関しても、定期的な評議員会の開催に加え、監事および監査法人による会計監査、および会計・業務監査制度による内部監査等を行ってきており、一定のチェック機能を果たしてきていると評価していますが、2014年度に南山学園に対して行われました学校法人運営調査委員会による運営調査の結果、「理事会において設置する各学校の進捗管理等に積極的に関与することや、法人としての危機管理体制の強化等、理事会のガバナンス向上のために実効性のある取組みを行うこと」との意見が付されました。これを受け、2015年度から、理事会と各単位校執行部との懇談会を開催し、まずは意思疎通の時間を設けることがはじめられています。また、危機管理体制の強化については、2015年度から危機対応担当理事を置き、各学校での様々な問題への対応を行っています。

しかし、チェック機能の強化という点から、監事制度および内部監査制度の根本的な見直しを行い、先進的で効果的な監査制度を構築することを求めます。

南山学園各単位の方向性

すでに述べたように、南山学園が世間から何を求められているのかを、文部科学省・県関係機関の動向、ならびに南山学園の教育モットー・各単位校の教育方針と照らし合わせながら検討するとともに、各単位校における教育研究活動を点検した上で、その充実を図ってください。また、南山大学附属小学校および聖園各校を除く各単位校が策定した「20年後の将来像」については、そのビジョンの実現に向けた取組みを進め、その上で、今回ここに示す方向性について前向きに受け止めて取組むことを期待します。

南山大学

- ・ 地域に根ざしつつ、日本全国、世界に開かれた大学として、教育・研究・社会貢献を充実させる。その具現化として、学部・学科、研究科・専攻を問わず全ての構成員が、国際社会という大きな舞台での活躍を意識することができるための教育の仕組みを構築する。特に南山大学が行わなければならない、南山大学だからこそできる国際教育・国際交流への取組みを行う。
- ・ 各単位校のけん引的存在であり、財政的にも南山学園の中で大きなウエイトを占めていることを自覚し、学園全体を見据えた上で、事業の中長期計画策定を行う。

南山高等学校・中学校（男子部・女子部）

- ・ 教育の特色「国際的視野の育成」を活かす取組みとともに、恒常的な自己点検・評

価を行う。

- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。

南山国際高等学校・中学校

- ・ 最後の卒業生を送り出すまで、在校生の就学環境を損なうことのないよう、理事会および学園内の各単位校と密接な情報共有および協議を行いながら学校運営を行う。

聖霊高等学校・中学校

- ・ 教育の重点目標の一つである「外国語教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。
- ・ 南山大学、南山大学附属小学校との連携をはじめ、高等学校・中学校間の生徒・教員との交流を深めることで、各単位校が特色を活かし、理解し合う環境を構築する。
- ・ 生徒を安定して受け入れることができるよう、「選ばれる」「魅力ある」学校づくりに努める。

聖園女学院高等学校・中学校

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「国際教育」を通して、生徒の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

南山大学附属小学校

- ・ 学園内での進学を視野に入れた質の高い、特色のある教育を行うために、恒常的な自己点検・評価を行い、改善を進める。
- ・ 中等教育での深化が期待できる「南山大学附属小学校ならではの国際教育」を構築するとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。
- ・ 財政基盤を強化することで、事業の中長期計画の健全化を図る。

聖園女学院附属聖園幼稚園

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色である「英語指導」を通して、幼児の国際性を磨く取組みとともに、恒常的な自己点検・評価を行う。

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

- ・ 南山学園の一員として、「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを十分に理解したうえで、これまでの校訓の具現化を行う。
- ・ 教育の特色のさらなる深化のため、恒常的な自己点検・評価を行う。

法人事務局

- ・ 理事会をサポートする部門であるとの自覚を持ち、南山学園全体の将来構想、課題を認識した上で、その具体的な方向性の実現に向けて政策立案する機能を高める。
- ・ 南山学園全体の管理業務の中核であるとの自覚を持ち、各単位校の管理業務のけん引役としての機能を高めるとともに、南山学園全体への社会からの期待と責任に応えることができるよう、絶えず自己点検・評価を行う。
- ・ 理事会のガバナンス強化について、その立案・実行・点検・評価を行う。

南山学園の財政基盤確立に向けて

南山学園における財政運営の基本は、これまで通り、各単位が少なくとも当該単位の収支に対する自覚を強く認識していただくことにあります。さらに、繰越消費支出超過額の厳しい予測に対し、建学の理念の具現化を果たしつつ、教育研究活動のさらなる推進を可能とする裏付けとして、各単位の「財政の健全化」が不可欠であることには変わりはありません。

2008年度の経済社会の激変に伴い発生した南山学園の資産運用問題による多額の繰越消費支出超過額をどのように改善していくかについては、理事会と法人事務局の責任において検討し実施しておりますが、これは各単位校が将来計画を踏まえ、より健全な収支を維持することが当然の前提です。各単位校が適切な幼児・児童・生徒・学生を安定的に確保し、かつ教育研究活動への取組みに一層努力することで得られる高い社会的評価をもって厳しい財政状況を乗り切ることができ、健全な財政基盤が確立できるものと確信しております。

おわりに

はじめに述べたように、南山学園は、「キリスト教世界観に基づく教育を行ない、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」を建学の理念としています。カトリック学校における教育はかけがえのない一人ひとりに神から固有に与えられた力を十全に引き出し、開花させることを目指しています。そのような教育の現場では、各自の個性が最大限に尊重される一方、各自が「共通善」を推進し、快く他者と協力する姿勢が涵養されていくのです。

学園の構成員一人ひとりがこれらのことを十分に理解した上で、理事長基本方針にある課題の解決に努める必要があります。

南山学園が幼児・児童・生徒・学生の人格形成を推進し、確かな学力と豊かな人間力を身につけた人材の育成を通じて社会に貢献し続けていくために、構成員一人ひとりが何をしなければならないかを主体的に考え、互いに協力しながら、一層尽力することを期待します。

以 上

2022年度南山学園事業計画（学園全体）

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

2021年4月に大学本部と経営本部として新しい事務組織となつてから2年目を迎え、さらなる運営の効率化や学園内連携の向上等に取り組むことが求められています。公共性の高い学校法人として、法令遵守はもちろんのこと、危機管理体制の向上や、教育のみならず校務運営のICT化など、重要な事項に対応し、社会の変化や要請にこたえ、「信頼され、選ばれる学園」となるための事業を推進してまいります。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・BCP(事業継続計画)の具体的な作業を開始します。
- ・事務執行に係る迅速かつ正確性を高めるべく、電子決裁システム拡充や電子契約の取扱を検討します。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新たな媒体を活用しての「カトリック」「国際性」を軸にしたインパクトある学園広報を実施します。
- ・学園の財政改善に向けより多くの収入を獲得するための方策等、中・長期的な視点で検討を行います。
- ・省エネルギー・カーボンニュートラルに向け、再生可能エネルギー設備の導入を検討します。

II. 新規事業

1. 学園全体

(1) BCP（事業継続計画）の策定に向けた具体的な作業開始 ★

2020年度に学園としてのBCP（事業継続計画）の策定の必要性が課題として提示され、それを受けて2021年度にBCP制定に向けたコンサルティング業者を選定しました。2022年度・2023年度の2か年で理事会主導のもと各設置校とも連携して策定を行います。2022年度は学園全体のBCP方針・教校の個別BCP方針の策定を予定しています。

2. その他

(1) ハラスメント相談体制の構築

年々複雑化する相談に対応できるよう、南山大学を中心として、南山学園全体のハラスメント相談体制を構築します。

(2) 文書業務の電子化の促進

事務執行に係る意思決定の迅速性および正確性を高め、ペーパーレス化を推進することを目的として、南山学園のすべての設置校において、2021年度に電子決裁システムを導入しました。さらなる業務の効率化を高めることを目標として、電子決裁システムの拡充、電子契約の取扱を検討します。

(3) 各単位補助金に係る交付状況の分析

2021年度各単位に交付された補助金について前年度と比較し、2022年度以降の申請においてより多くの補助金が獲得できるよう分析します。

(4) 外部研修への学園内公募制度の導入 ★

外部研修への参加について、事務職員の自律的キャリア形成を支援するため、学園内公募制度の導入を検討します。一部の外部研修において試行的に導入し、段階的に拡充していきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学園全体

(1) 南山学園中期計画の実行と評価 ★

2020年4月に改正私立学校法が施行され、新たに2020年度から2024年度の5年間を計画期間とした「南山学園中期計画」を策定し、実行を始め、2022年度は計画3年度目となります。1年度目評価を2021年度に行った際に課題となった進捗評価方法（評価の基準およびエビデンスのあり方）の改善とともに、計画期間の「折り返し」として、計画の達成に向け、未取組事業の洗い出しや具体的な事業の実施時期等にさらに取り組みます。

(2) 学園内連携のさらなる充実 ★

学園内連携推進協議会の下にある高大協議会、小中高協議会、小学校・大学連携協議会の各協議会において「学園内相互連携の一層の充実」の実現に向けた議論を2020年度より開始し、設置校間の教員交流や情報交換の場の必要性について、これまでに確認しています。2022年度はより具体的な方策についてさらに検討を進めます。また神奈川の聖園各校と愛知県内の各設置校との連携についても、充実と強化に向け検討します。

(3) 「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

本学園の自律的で意欲的なガバナンス改善や経営の強化、情報公開等の促進を行うための自主行動基準として「南山学園ガバナンス・コード」を2020年4月に策定し、学園運営の指針を明示しました。前年度の遵守状況点検を踏まえ、項目を遵守できていない事項の改善と、2021年度終了後の遵守状況点検を継続して行います。点検により現在の状況を客観的に把握し、共有することを通じて学園運営のさらなる健全化を進めます。

2. 広報活動

(1) 学園広報活動 ★

中期計画に定めた「学園のブランドイメージ形成に資する広報戦略の実施」の実現のために、2021年度により効果的な広報計画を立案したことを受け、2022年度はその計画により広報活動を展開します。具体的には、従来の新聞広告のみの広告展開から、鉄道・空港・集客施設等の各種媒体を活用した広告展開へ変更し、掲出時期や内容を工夫して、「カトリックのミッションスクール」「国際性」を軸に、インパクトを与える広報活動を行います。特に神奈川エリアでは南山学園の良さを伝え、知名度を向上できるよう力点を置いて対応していく予定です。また、2019年度から実施している各単位校合同での進学相談会「トワイライト合同相談会」を継続し、総合学園としての南山学園をPRするとともに、各単位校入試広報活動の支援を行います。さらに2021年度までの「学園総合案内誌」と「学園概要」を統合・発展させた新たな「学園総合案内誌」の冊子を作成し、1つの資料で本学園の歴史・概要・統計値を分かりやすく読み手に提示する改善を行います。

3. 施設・設備

(1) PCB 廃棄物の処分 ★

2016年度からPCB廃棄物の処分を開始しました。2019年度から高濃度PCB廃棄物である蛍光灯安定器の処分を3年計画で実施し、2021年度に処分が完了しました。今後、低濃度PCB含有の可能性のある機器について濃度検査を実施し、処分期限の2027年3月末までに適切に処分を行います。

(2) 校舎の耐震対策 ★

学園内各校校舎の耐震補強工事は既に完了しています。2021年度に、専門家による非構造部材を中心とした建物点検を実施しましたので、その結果を吟味し、今後の安全対策を行います。

(3) 省エネルギーならびにカーボンニュートラル対策 ★

CO₂排出量の削減を目指し、省エネルギー対策を推進します。設備面では、照明を順次LEDに、空調

機を省エネタイプに置き換え、運用面では、クールビズやウォームビズの推進や、空調の温度設定や、無人時の消灯と空調オフを徹底します。

加えて、2050年のカーボンニュートラルに向けて、CO₂フリー電気の利用や、太陽光発電等再生可能エネルギー設備の導入を検討します。

(4) 遊休資産等の活用と処分 ★

南山学園が所有する遊休資産等については、多角的に活用方法を検討するとともに、将来的に活用の見込みのない土地については処分を含めた提案をします。

(5) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

国道467号線との境界が明確ではなかった聖園女学院高等学校・中学校正門前の土地については神奈川県と確認を進めています。2022年度は引き続き神奈川県に働きかけ、測量に基づいた土地の確定作業を進めます。

4. 社会貢献

(1) 中部経済連合会・中部経済同友会への加盟等による経済界とのつながり ★

学校法人は教育活動および大学での研究活動を通じて、次世代の育成や新しい知見・技術等の学術を通じて、経済発展の一翼を担っています。南山学園では、中部経済連合会・中部経済同友会などの中部地域の経済団体に継続して加盟し、経済界とのかかわりを持つとともに、双方向の情報交換により、社会のニーズや変化を把握し、中部地域の経済発展への寄与と本学園の教育・研究活動の向上に努めます。

5. 財務

(1) 財政改善に向けた取り組み ★

南山学園の財政改善に向けた取り組みとして、2020年度より当年度収支差額の収支均衡という第1の財務目標に加え、各設置校の財政状況を踏まえた第2の財務目標を設定し、段階的な改善を図りました。2022年度はその3年目となるため、これまでの取り組みに対する評価を、南山学園全体および、設置校毎で実施し、その評価を踏まえた新たな財政改善に向けた取り組みを中・長期的な視点から検討します。

(2) 有価証券運用の取り組み ★

昨今の低金利環境下、より多くの収入を確実に獲得するため、2021年度は有価証券運用に伴うリスクを十分に考慮しながら安定性資産の売買を伴う運用を一部開始しました。2022年度については、既存の資産運用方針を遵守しつつ、南山学園の財政基盤を健全かつ強固なものにするため、リスクを最小限に抑えながら、更なる運用益獲得につながる取り組みを検討します。

(3) 南山国際高等・中学校の閉校に伴う財源確保 ★

2022年度に閉校を迎える南山国際高等・中学校の校舎解体等の処理は、2023年度の南山学園における事業の一環として対応します。解体等にかかる財源については、南山学園の教育・研究活動に影響を及ぼさないよう慎重に検討します。

以上

2022年度南山大学事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

2021年9月に大学創立75周年を迎えました。次は創立100周年に向けて、南山大学の建学の理念および「人間の尊厳のために」という教育モットーに改めて立ち返り、2020年度から掲げているキーワード「地球規模の関心、私たちの貢献」を心に刻んで、学生や教職員が安心して教育・研究に取り組める環境を整えます。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・南山大学「人間の尊厳賞」の表彰式
- ・大学院博士後期課程奨学支援制度
- ・南山大学ヤンセン国際寮の開寮
- ・ライネルス中央図書館の竣工
- ・ハラスメント問題対策委員会の新体制

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・NU-COILプログラムの発展的継続
- ・学内国際交流のさらなる活性化
- ・国際的な大学間連携の推進
- ・認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行
- ・Nanzan International Certificateの発展・強化
- ・オープンアクセス化の推進
- ・社会貢献と各種連携の強化
- ・入試制度の見直し
- ・大学戦略広報の強化
- ・安定的な財政基盤の構築

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 南山大学「人間の尊厳賞」の表彰式 ★

大学創立75周年を記念して、南山大学「人間の尊厳賞」が創設されました。同賞は、人間の尊厳のために特別な貢献をなさってきた方を対象に授賞します。これを価値ある賞とするため、選考において幅広く社会に候補者を求め、継続して5月末の大学創立記念式典にあわせて表彰式が行われるようにします。「人間の尊厳賞」の授賞を通じて、本学の理念を世界に向けて発信していきます。

2. 教育・研究

(1) 大学院博士後期課程奨学支援制度 ★

2022年度より大学院博士後期課程奨学支援制度が開始されます。この制度は、博士後期課程に在籍する大学院生を対象に、授業料および施設利用料の半額を免除するというものです。より多くの優秀な大学院生に修学の機会を提供していきます。

3. 施設・設備

(1) 南山大学ヤンセン国際寮の開寮 ★

2022年4月に開寮する南山大学ヤンセン国際寮は、「ダイバーシティ&インクルージョン実践力養成プログラム」と呼ばれる教育プログラムを実施し、日本人学生と留学生とが協働して国境を越えて活躍する力を育む場を提供します。

(2) ライネルス中央図書館の竣工 ★

2023年2月、大学創立75周年を記念した図書館リニューアル事業として、「ライネルス中央図書館」を竣工します。新たな図書館では、動的、積極的に人と人、人と書物や知識、そして社会とが全人的かつ個性的存在として「である」「つながる」「かわる」ことによって、新たなイノベーションが実現するよう種々のサポートを提供します。

4. その他

(1) ハラスメント問題対策委員会の新体制

ハラスメントの相談内容は年々複雑化し、増加する傾向にあります。こうした状況に対応するため、2022年度より南山学園全体のハラスメント相談体制を構築することになりました。新体制においても着実に業務が遂行できるように取り組んでいきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) ウィズ・コロナ/ポスト・コロナの大学運営

会議や授業の運営において、2021年度もコロナ禍で様々な困難に直面しましたが、大規模講義の実施形態、オンライン授業のあり方、オンラインツールの活用等について幅広い知見を獲得できました。こうした知見を踏まえ、大学運営におけるオンラインの有効活用について検討していきます。

2. 教育・研究

(1) NU-COIL プログラムの発展的継続 ★

2018年度から開始した大学の世界展開力強化事業(米国)のプログラムが2022年度に終了しますが、短期留学プログラムも含めて各学部や研究科におけるCOIL型授業のさらなる拡充に努めていきます。また、IFCU(世界カトリック大学連盟)と連携して本学の世界的COIL教育ハブへの発展を目指すとともに、海外学生と本学学生のオンライン交流(CJS Online Cafe「和」、Global Chit Chat、Modern Japan Discussion Table)を継続的に推進していきます。

(2) 学内国際交流のさらなる活性化 ★

国際交流の実施もコロナ禍によって大きな影響を受けました。こうした状況においては学内国際交流がよりいっそう重要になります。南山大学ヤンセン国際寮は、「ダイバーシティ&インクルージョン実践力養成プログラム」と呼ばれる教育プログラムを実施し、日本人学生と留学生とが協働して国境を越えて活躍する力を育む場を提供します。また、多文化交流ラウンジ(Stella)、ワールドブラザ、ジャパンブラザをさらに活用し、単なる国際交流にとどまらず、アントレプレナーシップ教育とも連動させたプログラムを実施する等、学内における国際交流と学びの推進に努めていきます。

(3) 国際的な大学間連携の推進 ★

2021年度、本学は二つのプログラムに採択されました。一つは、文部科学省「大学の国際化推進フォーラム」事業で、琉球大学を幹事校とした「COILを活用した持続的グローバル・イノベーション人材育成プロジェクト」です。もう一つは、「令和3年度大学発新産業創出プログラム(START)大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム支援形成」に採択されたTongaliプロジェクトで、東海地方の大学とともに次世代の起業家育成やグローバルなイノベーションシステムの構築に取り組みま

す。これらのプロジェクトを通じてオンライン授業も含めた科目の相互提供を進めていきます。

学生交流協定を締結した海外の大学・機関は、2021年度末の時点で33カ国・地域で116大学となっています。また2015年に策定された「南山大学国際化ビジョン」の見直しを始めていきます。

(4) 認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行

本学は、2020年度に大学基準協会の認証評価を受審しました。指摘事項について内部質保証委員会を中心となって改善計画を策定し、中間報告にあたる改善報告書を提出することになる2024年に向けて改革に取り組んでいきます。

(5) Nanzan International Certificate の発展・強化

国際科目群から24単位以上修得すると、本学で国際力を獲得した証としてNanzan International Certificate（以下NIC）が発行されます。2022年度には英語以外の言語（スペイン語、フランス語、ドイツ語）で行われる科目も国際科目群に加えられました。さらに学生にとってNICがより魅力的になるために、取り組んでいきます。

(6) オープンアクセス化の推進

本学は2020年度に「南山大学オープンアクセス方針」を策定し、2021年度には「南山大学オープンアクセス実施要領」を定めました。この方針に従って、2020年9月25日以降に発表された刊行物は原則的にオープン化することになりました。今後、過去の学内の研究成果についても幅広くオープン化できるように取り組んでいきます。

3. 社会貢献

(1) 社会貢献と各種連携の強化

地域や社会の発展に貢献することは、基本方針でも掲げた「地球規模の関心、私たちの貢献」に資する重要なステップです。2021年度は創立75周年を記念するにあたって南山大学「人間の尊厳賞」を創設し、「人間の尊厳のために」という理念の実現に多大な貢献をされてきた方を表彰しました。本賞の授賞を通じて、大学の理念に立ち返りながら、社会において大学としての使命を果たしていきます。

大学間連携では、2021年度、本学は愛知教育大学と教員養成の高度化に関する連携協定を締結しました。くわえて、アジア・キリスト教大学協会（ACUCA）、東南・東アジアカトリック大学連盟（ASEACCU）、国際カトリック大学連盟（IFCU）等を通じて、引き続き世界のキリスト教系大学との連携を深めていきます。

環境問題についても南山学園は2008年度に「南山学園環境宣言」を発表し、早くから環境問題に関心を寄せてきました。その一環として南山大学は、2021年度創設された「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加すると同時に、具体的な計画を策定しているところです。本学の研究・教育活動を通じて、環境問題の改善に関するアイデアを出し合い、議論を重ね、より良い未来を創造できるよう努めていきます。

4. その他

(1) 入試制度の見直し

2021年度末、「入試制度検討ワーキンググループ」の最終報告書において、長期留学経験者や高大連携協定校を対象とした推薦入試の多様化が提案されました。くわえて、海外指定校の拡大等、海外からの志願者の受け入れも推進していきます。

(2) 大学戦略広報の強化

大学の広報活動は、より多くの方々に本学を知ってもらう機会を提供します。とりわけ、教職員の研究成果や教育活動の発信、在学生や卒業生の活躍は、大学の社会的評価の獲得に大きく影響します。本学構成員のそれぞれが、大学広報の一端を担っていることをいま一度自覚するとともに、関係課室はより一層連携して、戦略的な大学広報活動に取り組んでいきます。とりわけ入試に関する広報については、どのような媒体で何を伝えることが効果的なのかを受験生の目線で検討していきます。

大学のブランディング強化は国内にとどまりません。世界の優秀な留学生にも選ばれる大学になるために、本学の国際性を活かした国際戦略広報の展開に努めていきます。そのために関係課室が協力する体制を強化するとともに、学部・大学院は相互に連携して留学生向けの広報活動を強化します。留学生同窓会や海外事務所等を活用した現地高校訪問や SNS 等を積極的に活用して、本学の国際性を発信するよう努めます。

(3) 安定的な財政基盤の構築

本学の魅力を維持・向上させるためには、安定的な財政基盤を構築することが不可欠です。教育・研究の充実を図るため、今後も補助金の獲得に努めていきます。2021 年度には、学生納付金の改定を実施しました。入学定員の充足率に留意しながら、学納金改定および支出削減計画策定小委員会で検討される支出削減等の方策を継続して実施していきます。

寄附金については、現在、南山大学創立 75 周年記念募金、新型コロナ対策学生応援募金、大学院博士後期課程奨学支援募金、南山大学教育研究支援募金を進めています。これらについて卒業生・企業等への周知を図っていき、さらに寄附金の多様化についても検討していきます。

以 上

2022年度南山高等学校・中学校（男子部）事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を日々の教育活動の中で具現化できるように、「地の塩、世の光」の聖書のみ言葉を深く理解し、国際的視野を持ち、人類愛を実践できる人材の育成に努めます。「新学習指導要領」実施と「高大接続改革」という社会の変化に対応し、生徒たちの学習意欲、キャリア意識を高め、コミュニケーション能力を涵養し、総合的な学力を培います。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・新教育課程への対応と検討を行います。また、大学入試の変化に伴い、生徒への進路意識の涵養や、高大連携の充実に努めます。
- ・生徒が1人1台の端末を持ち、各種活動においてICTを活用できるような環境を整備します。また、成績処理システムに加え、デジタル採点システムを導入し、成績管理の合理化を行います。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・統合型校務支援システムの整備点検を行います。
- ・勤怠管理システムにて労働時間の適正な把握をします。
- ・中長期を見通した将来構想の策定をします。
- ・新型コロナウイルスの影響下での学校生活における部活動・行事等の従来通りの実施を目指しつつも、それらの点検修正を行いながら実現可能な活動を行います。
- ・聖書に基づく価値観の育成・宗教心を涵養します。
- ・「新学習指導要領」と「高大接続改革」への対応を行います。
- ・スクール・カウンセラーと連携した精神的なストレスを抱えた生徒へのケア、サポートをします。
- ・非常時における危機管理体制、および保護者との連携の確立に努めます。
- ・「高大接続改革」を見据えた6ヵ年一貫の体系的な進路と進学を支援します。
- ・心身ともに健康で安全な部活動の充実に図ります。
- ・「国際的視野の育成」を目的とした3つの海外研修の充実に図ります。
- ・学園内単位校との連携を踏まえた広報活動の充実に目指します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 新教育課程への対応と検討

教科書内容、指導内容の変更等、高1を中心に大きく変化が起こる中で、そこへ繋がる中学校での学習、移行期間にあたる高2以上においても、新しい学びにも対応しうる学習活動の創意工夫を行います。今後示される必履修以外の教科書の選定を始め、大学入学試験の変更点に関わる情報を積極的に収集する中で、新教育課程の改善等も視野に入れながら、検討を重ねていきます。

(2) 進路意識の涵養を目的とした高大連携の模索

2021年度入試より始まった入試改革を皮切りに大学入試も大きく変化してきており、それに伴って進路に対する意識や理解はこれまで以上に重要なものとなってきています。そうした状況の中にあって生徒が望む進路を拓いていくため、これまで培ってきた方針・指導を継続しつつ、より生徒に資する取り組みを南山大学の助言・協力を仰ぎながら模索していきます。

2. 施設・設備

(1) 可動式電子黒板の全ての普通教室への設置 ★

教育の ICT 化に向けた環境整備の一環として、全教室へ電子黒板が配置され、Wi-Fi 完備の環境が実現しました。さらに、2023～2024 年度を目途に生徒が 1 人 1 台の端末を持ち、授業や家庭学習といった学習活動をはじめ、各行事・生徒会活動・部活動などでも ICT を活用できるような環境を整備します。これによって、すでに導入されている校内 ICT 環境や生徒アカウントを引き続き利用しながら、より一層の活用ができるような環境を作ることができます。そのために、主として ICT 活用検討委員会で導入済みの ICT 環境の利活用に加えて、端末の利活用方法および端末の種類などの検討を進めます。これによって、授業をする側の教員も受ける側の生徒も満足度の高いものになると期待されます。さらに教育用ソフトウェア (SKYMENU) の整備拡充を行い、デバイスの利用についても検討します。

(2) デジタル採点システムの導入

成績処理システムに加えて、デジタル採点を導入することで、より精度の高い、生徒の成績管理を行っていきます。また、一人一台端末導入が実現した際には、電子化した採点結果を生徒端末へと Teams を介し返却する方法等も検討できるように、業者との打ち合わせを進めていきます。現状のデジタル採点の利便性を活かしつつ、ペーパーレス化も進めていきます。今後の展望として、中学入試への利用も検討し、正答率、合計点算出の点で、効率化を図りつつ、精度向上も目指します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 中長期を見通した将来構想の策定

「将来構想委員会」を中心として、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸ばできるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」について議論しています。その合意を基準として各教員が自覚と責任を持って自らの教育実践を見直します。中学校の卒業生 200 名がそのまま高等学校に進学することで、6 年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりを持った効果的な一貫教育が可能です。また、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他単位との連携、南山大学附属小学校との教育の接続、財政見通し等、内的刷新が図れるよう将来計画を議論、策定します。

(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

宗教の授業は、人間にとって大切な事は何か、何を目指して生きていけばいいのか、心を豊かにするための時間であり、カトリック学校として何より大切にしています。中学校では最初に男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指します。また高等学校では古今東西の世界の思想を学び、より広い視野の育成に資するよう、聖書に基づく価値観と宗教心を涵養します。

(3) 新学習指導要領・高大接続改革への対応 ★

生徒が希望する進路を実現できるよう、社会に求められる実践的な力の育成を中心に、本校独自のカリキュラム編成を精査します。また大学入学試験の情報に応じて、可変的な検討をします。高 2 以降の必修以外の教科書内容も開示されるため、そこに示された新しい力の育成を、旧課程の生徒にも取り込みながら幅広い対応力のある生徒の育成を目指します。観点別評価などの新しい評価基準に対応しながら、現在の成績処理システムの効果的活用の検討について継続していきます。

(4) 教職員の研修・研鑽・自己点検

『カトリック学校における教職員の役割』、『男子校での宗教教育』等のテーマで、カトリック学校の教員に相応しい研修・研鑽・自己点検の機会を設けています。また経験年数の異なる教員同士での話し合いを通して、各教科の教授法や生徒の生活指導、部活動の指導法、学年・学校行事の対応などについて、教育力の向上を目指しています。

(5) スクールカウンセラー (SC) との連携による生徒へのサポート

週に4日間、2名の臨床心理士の資格を持ったSCが相談室を開室し、心のケアに必要な生徒および保護者が利用しています。SCは個人情報を守りつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会と密接かつ迅速な連携によって生徒をサポートします。

(6) 危機管理体制

非常事態発生時には、情報システム委員会やWebページ委員会と連携し、メール配信とWebページ等で生徒・保護者に連絡します。授業中だけでなく生徒の登下校時等、様々な状況下での避難訓練に加え、毎年新学期に「防災用資料」を記入させ、非常事態発生時の対応を周知徹底しています。南海トラフ地震や火災等、自然災害を想定し、非常事態用の食料・日用品・簡易トイレ等を備蓄・管理しています。特に非常食に関しては、地域住民が避難してきた場合も想定して備蓄・管理しています。

(7) 保護者・在校生・卒業生・外部向け Web ページの拡充

保護者・在校生・卒業生だけでなく、男子部に興味・関心のある方々に向けての情報発信をさらに充実させていきます。フェイスブックでは学校生活の様子を写真とともに英文・和文の解説付きで発信しています。大学入試合格一覧や部活動のページの更新も随時行っています。保護者・在校生へは緊急のお知らせだけでなく、学校行事や学年行事、部活動などの情報を、また卒業生に対しては各種証明書等の情報を提供しています。

(8) 植栽の検討 ★

緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。今後は校舎の北側・部室棟西側の植栽を検討し、緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注ぎます。

(9) コロナ禍における点検

学校生活における授業・部活動・各種行事等の点検を行い、修正を行いながら実現可能な活動に取り組みます。

2. 教育・研究

(1) 図書館の充実

校内で最もアクセスのよい図書館は、「知の拠点」として日曜日を除いて毎日開館しています。生徒の希望図書を精査しながら、新しい書籍を積極的に購入し、6万冊に達するように計画します。世界遺産のDVDやクラシック音楽のCDなど視聴覚資料も充実しており、DVD等が利用できるメディアコーナーや、外の樹木や草花を眺めながら学習できる読書カウンター、60席の閲覧テーブルなどを、生徒に積極的に活用してもらえるように、図書館便りなどで情報発信していきます。新型コロナウイルス感染症の影響で、十分な利用時間が確保しづらい現状がありますが、自学自習の場として活用してもらえるよう、座席配置の工夫、消毒の徹底などを継続しつつ、機能的に使えるように工夫検討していきます。学習室も、除湿器を配備する等、一層の活用が進むように環境整備を行います。

※ 以下〔(2)～(8)〕は新型コロナウイルスの状況が改善された場合です。状況に応じて、中止・縮小・代替措置等を随時検討します。

(2) 6ヵ年の体系的な進路・進学支援

- [1] 中1～中3「中学生のキャリア教育」：中1で「市内探訪」、中2で「職業体験」、そして中3で養護施設や障がい者施設での「福祉体験」を実施します。
- [2] 高1「オリエンテーション合宿」：1泊2日の行程で京都にて実施します。1日目は各部長の講話や社会人講話を聴き、2日目は京都市内の大学を見学します。
- [3] 高1・高2「進路の日」：進路を具体的に・主体的に考えるように、社会人やOBの現役大学生など、様々な方による講演会を実施します。
- [4] 高2「総合講座」：全国10数大学の大学教員による1講座90分の模擬授業を、自身の興味関心に沿って午前・午後の2講座受講します。

- [5] 高1～高3「大学説明会」：全国10数大学の入試課の方から、各大学の特色や最新の入試情報等についての説明を受けます。
- [6] 高1～高3「南山大学学園内オープンキャンパス」：南山大学にて、男子部・女子部・国際校・聖霊・聖園女学院の学園内単位校合同で各学部学科の説明を受け、模擬授業も受講します。また南山大学在学中のOBによる大学生活紹介もあります。
- [7] 高1～高3「進路調査」：志望大学や志望学問だけでなく、学習時間や学習意欲等のアンケート調査を実施し、その結果の分析・検証を面談等に活用しています。
- [8] 高2「大学受験報告会」：大学受験を終えた高3生に、高2生に対してエールを込めて受験体験談を語ってもらいます。
- [9] 高1～高3「外部模試」：高校の各学年で年間2回以上外部模試を受験し、その結果の分析・検証を進路指導に役立てていきます。

(3) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めます。始業式や終業式の式典後に生徒への情報提供をし、明確な指導方針を提示していきます。また合同ホームルームや講演会を開催し、自転車通学者に対する交通安全や学校内外での携帯電話の取扱い方等、その問題点を認識させ対処法を学ばせます。

(4) 生徒の自治活動と社会貢献 ★

生徒自治会の自発的・積極的な活動は、一人ひとりの生徒にとって有意義なものとなっています。9月の文化祭と体育祭、3月のスポーツ大会、児童養護施設の子どもたちを招待する2月のスプリングカーニバル、文化行事等コロナ禍においても生徒の気持ちにより添い、可能な限り実施を目指します。文化祭は2年連続でオンライン開催でしたが、2022年度はオンラインと通常開催の両方の可能性を模索しつつ、展示の更なる充実や全体運営の向上が期待されます。生徒議会と各委員会は、学内環境の充実と美化、講演会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行などを日常的に取り組み、3校（男子部・女子部・中央大学附属中京高校）合同地域活動、他校との交流活動は可能な限り連携を図りながら取り組みます。

(5) 部活動

部活動は自主性・創造性、他人を思いやることのできる人間の育成を目指します。心身ともに健康で安全な部活動が継続できるよう、事故防止の対策・啓発として、熱中症対策・コロナ対応・AED講習会等も開催しています。運動部ではバスケットボール・野球・ソフトテニス・硬式テニス・陸上・卓球・水泳・サッカー・ラグビー・柔道・アメリカンフットボール・バドミントン・剣道、各部が活発に活動しています。文化部では将棋・アマチュア無線・ブラスバンドが各大会で活躍しており、写真・奇術等々が外部の発表会に積極的に参加しています。なお、ブラスバンドは女子部器楽部との合同コンサートを毎年開催しています。

(6) オーストラリア研修、ニュージーランド・ターム留学およびイタリア・キリスト教文化研修

「国際的視野の育成」の観点から、2つの海外語学研修を実施します。『オーストラリア研修』では、約3週間、ホームステイ先と学校の2つの場で英語を使い学びながら、現地の文化や人々の考え方に触れ、多様な考え方を身につけます。『ニュージーランド・ターム留学』では、約3か月間現地生活を送ることでツールとしての英語を身につけます。どちらのプログラムも、研修中に学んだことが南山での学校生活、そしてその後の人生において大きな果実となるよう、内容の充実を図ります。2022年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けて、『オーストラリア研修』の中止を決定し、『ニュージーランド・ターム留学』は日本国内と現地の状況を確認しながら今後実施の可否を決定します。2021年度より、新たに始まった『エンパワーメントプログラム』を実施しています。日本国内に留学している世界からの留学生をグループリーダーとして招き、英語を用いてグループワークやプレゼンテーションを学校を会

場にして5日間行います。英語の運用能力の向上に加え、異なる文化や考え方に対して理解を深めることを目的として行います。

『イタリア・キリスト教文化研修』はこれまで17回実施しました。12月末の8日間、クリスマスを祝うローマのサンピエトロ大聖堂、アッシジの聖フランチェスコ教会、フィレンツェ、ピサ、ミラノを訪れます。レオナルド・ダ・ヴィンチの『最後の晚餐』で有名なサンタ・マリア・デッレ・グラッチェ教会やウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を、教会のミサに参加しながら研修します。しかし、ここ2年間は新型コロナウイルスの影響で実施できず、現在も海外渡航には多くの支障があります。これらの状況が収束した後の再開が待ち望まれます。

(7) 広報活動の充実

日常的な教育活動を広く理解してもらい、多くの児童およびその保護者に本校への入学を希望していただくために、春・秋・冬に開催される本校主催の説明会や体験授業を中心とした広報イベントをより充実させていきます。また、新校舎完成を機に始めた塾団体等を招いての学校紹介を継続するとともに、フェイスブックやWebページの満足度を高めることで、本校の教育に関する理解を広めていきます。さらに、中学校受験志望者の裾野を広げることで本校の志願者を増やすため、私学協会を核にしたPR活動、イベント、学習塾などが実施する説明会などでの内容を充実させます。今後も、学園広報委員会の手助けも受けながら学園内他単位との連携による説明会を実施します。

(8) 南山大学・学園内他単位・南山大学附属小学校との連携推進

学園内高等学校・中学校とは部活動・生徒会活動において活発な交流を展開しています。また南山大学とは、大学説明会・オープンキャンパス等への参加に加え、様々な部活動での大学の施設借用、社会科や英語科の授業における大学留学生別科の学生による講義など、高大連携を積極的に進めています。さらに、南山大学附属小学校とは、小学校が行っている「特別支援教育連続講座」の会場を提供したり、研究会「真教育」へも将来構想委員会を中心に参加しました。児童生徒間ではブラスバンド部の演奏会を開催し、交流を継続しています。今後も幼稚園から大学までを有する総合学園の理念に基づき、より充実した環境を提供します。

3. 社会貢献

(1) 地域清掃

社会貢献として、高校の野球部員が毎週木曜日の朝に学校周辺からいりなか駅周辺までの清掃活動を行っています。近隣住民の方からも評価されており、引き続きこの活動を実施します。

(2) ボランティア活動

奇術部においては、老人福祉施設・子ども食堂・愛知県母子寡婦福祉連合会などの年間20カ所程度の施設を訪問しています。加えて、いりなか商店街の地域に貢献するイベントなどにも積極的に参加し、八事小学校トワイライトスクールへは毎月訪問しマジックを通じた交流を行っています。また、青少年赤十字にも登録しており、いのちと健康を大切に、地域社会のために奉仕する活動を行います。

4. その他

(1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋がっていきます。特に同じ教科の教師が協働することで、「教科教育力」の向上を図ります。

(2) 校務分掌の検討 ★

6カ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員数増加に伴う校務分掌を検討し、学習面だけでなく生活面でも生徒を支援します。

(3) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて2018年度より学納金改定を行いました。2036年度までは校舎建築の借入金返済が続くことに加え、今後施設・設備のさらなる充実のための費用を補うため、2021年度から寄附金を広く募集し、収入増加を図りました。また、新たな補助金の獲得に努めるとともに、幅広い広報活

動により安定した生徒募集を目指します。支出面においては、ICT教育への費用が多く見込まれる中で、教育環境を低下させることのないようにしながら、支出削減の検討を進めます。

以 上

2022年度南山高等学校・中学校(女子部)事業計画

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

ICT環境という教育インフラの整備・更新・活用を図りつつ、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人を育てるための、キリスト教精神に基づく人格教育を主軸とした6カ年の体系的な一貫教育の確立、校訓「高い人格・広い教養・強い責任感」の動機づけとなるよう教育活動を推進します。また、新型コロナウイルス感染症の動向に柔軟に対応しながら、学内にとどまらない体験的な学びの場の継続・創造に努めます。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・新カリキュラムへの移行に伴う諸課題の解決を図っていきます。
- ・生徒一人一台のタブレット等の端末環境を、授業のみならず多方面の学校活動に活かしていきます。
- ・構内に整備されたICT環境をフル活用して校務の効率化に努めていきます。
- ・第1体育館の空調機の一部入れ替えを行います。
- ・ジェンダーレス制服について検討し、年度内の導入に向けた調整を進めていきます。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・精神的なストレスを抱えた生徒に対して、きめ細やかなケアとサポート体制を強化します。
- ・ICT環境の活用について、実践例を共有するなど学内研修を重ねていきます。
- ・第1体育館の建て替えに向け、引き続き学園内関係部署との折衝を行います。
- ・財政状況改善に向け、一般寄附金募集の周知を図るとともに、経費削減に努めます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 新カリキュラムへの移行開始 ★

2022年度から、中学は一斉に、高校は高1から年次進行で新カリキュラムへ移行します。教員にとっては新学習指導要領に沿った授業準備等、とりわけ総合的な学習および探究の授業については、さらなる研究を進めていきます。業者提供のプログラム(中1は「新しい大学入試問題-日本アクティブラーニング協会」、中2は「ソーシャルチェンジ-教育と探求社」、中3は「ENAGEED-エナジード」)も取り入れていきます。高校は探究的な学びとして、一人ひとりの興味関心に基づいた研究活動を実施していきます。随時振り返りをし、その効果も見極めながらより良いカリキュラムの完成をめざします。

同時に、生徒にとっては7時間授業日が増えることに伴う、生徒会活動や部活動などの課外活動への影響も懸念されることから、そうした日常の課外活動および学校行事全般についても見直しを図っていきます。

2. 教育・研究

(1) 生徒一人一台の端末を活用した授業や課外活動の実践研究 ★

文部科学省が掲げるGIGAスクール構想に向けて、2021年秋に校内無線LAN環境の整備(通信回線の増強)が完了し、BYOD(Bring Your Own Device)方式による生徒一人一台のタブレット等端末の活用を開始しました。端末使用の最低限のルールも生徒たちと協働で策定を終えましたが、授業や課外活動等での本格的な活用はこれからです。当面は、教員間、教員・生徒間、生徒間での活用実践例を共有

しつつ、この教育インフラの活用法について研究を進めていきます。授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」の利用にも慣れ、教員からの一方向ではない双方向型の授業に役立てます。また、オンライン動画講座の「スタディサプリークルート」の利用も促進していきます。2021年度は愛知県からの補助金(オンライン学習支援事業補助金)を利用して高校生は実質無償でスタディサプリーを利用できました。2022年度は補助金が廃止されますが、生徒の学びを止めない手段の一つとして中学生も含めて契約し、授業や課題等に活用していきます。

(2) 専任教員一人一台 PC 環境の運用開始 ★

教員の校務軽減および情報セキュリティ強化のため、2019年度に学園共通統合型校務支援システム(スコール)を導入し、2021年度末に専任教員一人一台のノートPC環境の整備が完了したところです。今後は、タブレット端末も併用しながら校務の効率化、ペーパーレス化等の経費削減に努めていきます。

3. 施設・設備

(1) 第1体育館空調機の入替え

現在、体育館内に5機ある空調機のうち2機は稼働不能状態で、残った3機も不具合で冷房の効きが悪い状態です。とりわけ、夏場の生徒の熱中症対策をはじめとした安全管理上の観点から、3機(大型2機・小型1機)の入替えを計画しています。

4. その他

(1) ジェンダーレス制服の導入検討

全国的にジェンダーレス制服の導入が広がっていますが、本校でもこれまでに生徒会の特別委員会のメンバーを中心にモニター活動を実施してきました。2021年度に、生徒総会を経て正式な要望書が提出されたことを受け、現在、現行の制服にスラックス等を追加する方向で検討を重ねています。早ければ今秋からの導入となりますが、伝統を継承しつつ新たなスタイルを築いていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」生きる人となるための価値観の醸成

2021年度も新型コロナウイルスの影響で、多くの教育活動の大半が中止・代替を余儀なくされました。2022年度の実施についても引き続き困難が予想されますが、可能な範囲で対応していきます。

宗教の授業とは別に、総合学習やHR(ホームルーム)活動、行事のなかで宗教的講話の機会を設けています。各学年の事情に合わせ、本校の指導司祭だけでなく他の修道会司祭やシスター方にも依頼し、生徒たちの心の成長を促します。

中1・中2の静修会や中3・高2の研修旅行の折には、現地の教会をお借りするなどしてお話を伺ったり、共に祈りを捧げる時間を設けています。

日々の朝の聖歌とお祈りは欠かせません。また、月曜日の朝礼時には校長・指導司祭による講話(「朝のこころ」)、毎月1回放課後に行われるミサも続けていきます。

クリスマスの時期には、全校生徒が参加するクリスマス聖式、中1の希望者が参加するクリスマス修養会、音楽部員を中心としたクリスマス聖歌隊コンサート、器楽部員有志による医療施設でのクリスマスコンサートなども大切なミッションの機会と捉え、可能であれば引き続き実施します。

(2) 6ヵ年の体系的な一貫教育の確立 ★

中高6ヵ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き(教科別)』・『高校学習の手引き(教科別)』をそれぞれ入学時に配付します。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を中3から高3に配付します。秋には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付します。6カ年のゆったりした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて計11冊の『進路の手引き』を在学中に配付します。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、生活指導の一環として中1では「インターネット安全・安心講座」、中2では女性警察官による「対話型防犯教室 ― 痴漢被害等に遭わないために」、愛知県弁護士会による「いじめ予防出張授業」、高1では「ネットいじめ対策講座」を実施します。

6カ年の縦のつながり・交流としては、部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催し、高校生有志を中1クリスマス修養会にお手伝いスタッフとして派遣しています。

6月には、全学年で芸術鑑賞会を実施します。2022年度は落語を予定しています(これまで、劇団四季等のミュージカル、各種交響楽団の公演、狂言、映画等の鑑賞を実施してきました)。

高3の3学期の特別授業では、6カ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義なものにします。

キャリア教育の一環として、卒業生を含めて外部から講師を招き、特別授業や講演会を実施します(これまで講師に、臨床心理士、弁護士、判事、医師、TV放送編成制作局員、一級建築士、日本モンキーセンター学芸員、ジャイアントパンダ飼育係、警察署少年係、自動車メーカーエンジニア、損害保険会社人事部社員、予備校講師、様々な分野の専門家をお招きしました)。各種進路講演会の実施も検討します。

中1から中3までは「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高1から高3までは「外部模試」を実施し、6カ年を通した系統的な学習・進路支援体制を推進します。

中高連携をより一層強化するため、2012年度に「併設型中学校・高等学校」に移行しました。そのメリットを活かし、高校の教科書の中3で購入するなど中学の授業をより高度な内容にします。

(3) 第1体育館建て替えの検討 ★

建築基準法改正に伴い変更が生じた建て替え計画を見直すため、専門委員会を設けており、引き続き学園内関係部署とも連携・折衝しながら建築場所等を含めた協議を進めます。

(4) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

精神的な不調を訴える生徒が増加傾向にあることから、2021年度からスクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を週3日に増やしました。生徒の多様化に伴い、広い視野をもったサポート体制をめざして教育相談とサポート委員会を一本化し、組織名を「教育相談委員会」と改めました。各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別なサポートは、学年会とも十分相談して組織的に取り組んでいきます。学年主任を中心とした隔週の報告会では、各学年の生徒が抱えている問題点などを共有します。教育相談委員会主任、および補佐、養護教諭、生活指導部長、教頭、副校長、スクールカウンセラーで構成される報告会も今まで通り毎月1回開きます。また、このような問題を抱える生徒との橋渡しになっている養護教諭については、これまでは常時2名体制でしたが、2022年度より専任教員を1名増員しサポート体制を強化します。

2022年度は、不調の一因ともなっている成績不振者への手当てを拡充すべく、卒業生の協力を得る形でのチューター制の導入に向けて検討する計画です。

(5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

家庭との密接な連携を推進していくため、学年別保護者会、クラス別保護者会、授業参観、個別面談だけでなく、部活動の保護者会も実施します。保護者対象の講演会(2021年度も、南山大学准教授池田満先生による講演「子どもの人間関係について～親としての心構え～」を中2保護者対象に実施しました)、宗教講話も実施しています。また、学年通信・クラス通信の拡充による、学年・クラスと家

庭とのより一層の連携強化も図ります。

(6) 植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当初のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスを引き続き検討します。また、猛暑対策として自動灌水システムの見直しも随時行います。

2. 教育・研究

(1) 国際的視野の育成

新型コロナウイルスの影響で、2021年度もこれまで実施してきた3つの海外研修プログラムは中止しましたが、英語科主催の「エンパワーメントプログラム」と題する新しい形の短期国内研修を実施しました。本プログラムは、将来の日本を担う潜在能力の高い日本の若者を対象に、オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、カリフォルニア大学などの欧米をはじめとする現役の大学生・大学院生を招聘し、ディスカッションなどを通じて自らのあり方・生き方について考えるものでした。英語の受信力と発信力を向上させる効果が期待できるため、2022年度についても同様の企画の実施を検討しています。

(2) 男女別学の特色を生かした教育の推進 ★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部プラスバンド部・女子部器楽部の「ジョイントコンサート」を開催します。その他、生徒自治会レベルでの交流も継続します。

(3) 特色ある教育づくり

2009年度から世界117カ国が参加する文部科学省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校としてGLOBE委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査をしています。

2015年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、学校と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で引き続き活動を行っていきます。

理科主催の特別企画として、中1での動物園実習、中2でのプラネタリウム見学、JAXAや国立天文台による授業やささまざまな分野の研究者による「出前授業」を行います。家庭科では、高1の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っているNIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続します。また、家庭科と保健体育科が共同で2019年度に初めて実施した近隣の2つの保育園での保育実習も継続します(2021年度もコロナウイルスの影響で中止)。社会科や国語科主催のフィールドワーク企画も引き続き検討します。

(4) 大学入学者選抜試験への対応

2021年度入試から実施された「大学入学共通テスト」の導入など、大学入試改革は大きな変革期のなかにあります。特に2025年度入試からは、学習指導要領改訂に伴い大きな変更が予想されます。文部科学省や各種教育産業からの情報なども分析しながら、必要な対策を実施します。

(5) 英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて4技能(聞く、話す、読む、書く)の育成を図るため、中1から高2においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行います。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けます。将来的にはiPadを使つての多読、多聴が同時にできるようにします。2018年度より4年計画で英書を計約5,000冊購入し、充実した多読環境を整備して来ましたが、今後はそれらの入れ替えについても随時行っていきます。

(6) キャリア・トライアル(職業体験プログラム)

2016年度からキャリア教育の一環として、高校生(高1・高2)の希望者を対象とした職業体験プロ

グラムをスタートさせました。2021年度は募集定員を拡充し実施しましたが、年々ニーズが増えていることから、2022年度から新カリキュラムへ移行するのを契機に、高1の総合的な探究の時間の一環として組み入れることを計画しています。具体的には、ガイダンスを受け、次に事前学習、実際に3～5日間の職業体験、その後振り返りを行います。文化祭での展示発表も行います。中3を対象に、キャリア・トライアルの報告を含む高校生活全般や進路に関して、自分たちの経験を伝える場を設ける活動も行います。さらに、キャリア・トライアルから派生した課題解決型の職業体験プログラム(校内実施)も継続して実施する予定です。

(7) 性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育は実施していますが、中2と高2向けには、産婦人科医の方に実際に医療現場でどのような性の問題が起きているのかを、それぞれの対象学年に応じた講演をしていただき、自分の問題として考えていく機会を設けます。

(8) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施します。また、社会科教科会が積極的に行っている教員向けの授業公開を、他教科にも呼びかけて拡大し、ICTを活用した授業実践等についても情報交換を図ります。

年に2回実施している教員研修については、教職員の意見を聞きながらニーズに合ったプログラムを策定します。また、研究助成金を利用した外部研修への参加も促します。

2021年度の教育・研究活動をまとめた『年報』32号を発行し、教員の研鑽・相互学習を促します。

(9) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進 ★

高校生に向けては南山大学学園内オープンキャンパスへの参加を呼びかけ、保護者向けには南山大学キャンパス見学会を実施します。総合学習の一環としては、高1を対象に南山大学の各学部の先生による特別授業「南山大学セミナー」についても引き続き実施します。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から始めた中2を対象としたコミュニケーションスキルアップのための取り組みも継続します。さらに、社会科主催で過去に何度か実施したことのある南山大学人類学博物館との連携によるワークショップについても、再度検討します。その他にも教育実習生、インターンシップ研修生としての南山大学の学生の受け入れや、本校教員が南山大学で教員免許状更新講習に参加するなど、大学との協力関係を継続します。

南山大学附属小学校とは、小中高協議会や同引継ぎ分科会等のみならず、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けていきます。

3. 施設・設備

(1) ICTを活用した教育環境の保守・点検・更新 ★

ICT環境は一通り整備されましたが、これまでICTに精通した一部の教員に依存してきたことは確かです。今後の全校的な運用に際しては、日常的なICT環境の保守・点検・更新等については専門の支援員は必須です。教員が本来の業務に専念できるよう、授業時のICT機器のトラブル処理や教員のスキルアップを図るための人的整備について検討していきます。当面は週3日勤務の業務委託を計画していますが、将来的には視聴覚業務との一本化を見据えています。

4. 社会貢献

(1) 地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「一斉大掃除」を年に2回実施します。

(2) 募金活動

宗教活動委員会への呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)、および生徒自治会の呼びかけによる、学校祭収益金(バザー等の

実施)の寄附(社会福祉活動・国際医療活動・私学奨学金等)等の寄附活動を続けていきます。

東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が参加しての「被災地支援チャリティーコンサート」(募金活動やチャリティーに関連した物品販売なども)は10年を過ぎ、一つの節目を迎えました。今後もうこうした活動を通じて、他者の痛みや苦しみ、悲しみに寄り添う姿勢を育んでいきます。

(3) ボランティア活動 ★

器楽部による医療施設などでのクリスマスコンサート、小百合会(主にボランティア活動を行う部)による特別養護老人ホームでの交流、催事等のお手伝い、希望者による献血を呼びかけるボランティア等を随時行なっています。こうした部活動の活動のみならず、キリスト教精神を理解し実践するため種々のボランティア活動への参加を奨励しています。

(4) 地域貢献

バンテリンドームナゴヤ・南山大学附属小学校グラウンド等で行われている日本サッカー協会主催ユニクロ共催のJFA ユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)に、サッカー部の生徒がボランティアで指導に参加しています。

5. その他

(1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続します。また、不審者侵入時の緊急対応訓練を年1回、火災・地震対策のための避難訓練も年2回継続して実施します。2019年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)については策定を終え周知しましたが、訓練などを通じてブラッシュアップしていきます。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、校内サポート委員会、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携を、より一層強化します。

緊急連絡等の体制については、メール配信を主軸にしています。より早くて確かな内容で生徒・保護者に伝えるため、学校(送信者)の携帯端末やパソコンから、容易に発信できるシステムを維持します。生徒・保護者の個人情報(メールアドレスのみ)は、委託業者のサーバで厳重管理されています。全校一斉配信、学年やクラス、部活動ごとの配信のほか、校外行事等についても対応できるよう、きめ細かい多系統の配信にしています。また、学校からの一方向の連絡のみではなく、生徒や保護者からも応答が可能になるよう双方向配信システムの採り入れについても検討します。

宿泊を伴う学年行事等については、緊急事態発生時の対応マニュアルを整備して迅速な対応ができるように備えています。

(2) 広報活動の充実

学内における入試説明会(5月)と学校説明会(11月)の実施、年間30回以上の外部説明会・個別相談会への参加を継続します。コロナ禍が継続するなか、学校見学などの機会を増やすなどして受験生のニーズに応じていきます。またWebページやフェイスブックのより一層の充実を図り、在校生、卒業生、家庭や地域などへ広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めます。2022年度は新たな学校紹介動画の制作も計画しています。

(3) 財政改善に向けた検討

北・南校舎の建築から15年が経過し、2021年度は空調機の全面入れ替えを行いました。他にも修繕等を要する箇所は多々あります。築約60年の第1体育館はもとより、築30年を迎える東校舎、とりわけトイレ設備の更新は喫緊の課題でもあり、これらについても放置というわけにはいきません。ただ一方で、収支均衡に向けた財政改善に向けた努力もしていかなければなりません。2020年度から開始した一般寄附金の募集については引き続き周知徹底を図るとともに、事業計画等についても中・長期的な視点から精査することに努めます。

以上

2022年度南山国際高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

2022年度の南山国際高等学校・中学校の在籍生徒は、高3だけとなり、2023年3月末をもって閉校となります。最後の年度となりますが、南山学園および本校の「中期計画」に基づき、国際部以来の伝統と特色を守りながら、編入生の受入れを行い、帰国生受入れ校としての社会的役割を果たします。理事会が約束した「最後の一人の生徒まで、入ってよかったと思える学校」を、学園・学校が一体となって実現してまいります。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・施設・設備・備品等の撤収作業等、閉校の準備を行います。
- ・お世話になった関係各位・諸団体に、閉校のお知らせと感謝の意を伝えます。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・ICT技術を活用した効率的な学校運営および閉校後の証明書等発行システム構築を進めます。
- ・閉校後のモニュメント・閉校セレモニー・「記念誌」等の準備を進めます。
- ・英語教育、ICT教育、個別指導等を柱に、教育プログラムを進めます。
- ・感染症対策を含め、安全で安心できる学校環境を整備します。
- ・PTA、卒業生、同窓会、他の単位校等との連携を強めます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 閉校にともなう諸作業 ★

閉校まであと1年となります。教育プログラムや学校運営に支障を与えないことを最優先に、施設・設備・備品等の処分や再利用の作業を、環境への負荷にも配慮しながら段階的に進めます。また工事等により近隣住民の皆さまにご迷惑をかける事のないよう、準備や説明を行います。なお2020年度から実施している本校教員の学園設置校への計画的な移籍プログラムも完了します。

(2) 関係各位・関係組織・団体へのお礼 ★

本校が開校し現在に至るまで、多くの個人、組織・団体の皆さまに物心両面にわたって支えていただきました。しかるべき時期に、謝意を閉校のお知らせに合わせ、感謝の意をお伝えします。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 効率的な学校運営、閉校後の証明書発行等のシステムの活用 ★

学校の小規模化に対応して運営組織の見直しを行いながら、スコーレ（学園共通統合型校務支援システム）、やGoogle Classroom（学習管理アプリケーション）、一斉メール配信システム等を、成績処理、業務の効率化、教育活動等に活用します。ICT教育、双方向コミュニケーション、防災対策等の多様な面でデジタル化を進め、効率的な学校運営をめざします。これと並行し、閉校後の記録の保存、学園Webページからの証明書等の発行が円滑に行われるように、法人本部と連携して具体化します。

(2) 生徒募集・編入の実施 ★

2022年度は、高3の3クラスのみとなりますが、海外子女教育振興財団や各企業の担当者等と連携し、Web ページや刊行物、学校説明会、日常的な編入相談等を通して、7月まで編入を受け付けます。

(3) 安全で安心できる学校の実現 ★

行政・関係機関および学園危機管理委員会と連携しながら、緊急時の対応マニュアルを不断に見直し、気象災害、南海トラフ大地震、Jアラート、熱中症、感染症等のリスクへの対応を行います。各家庭と日常的に情報共有を行い、施設・設備のハード面の点検、災害時の初期対応訓練、緊急時の防災備品や携帯用品の整備を行います。

また、キリスト教精神に基づく「いじめ防止対策基本方針」を遵守します。毎学期に実施する全校生徒アンケートも活用し、「いじめ」があった場合、迅速な対応をするともに、総合的な視点で「いじめ」を生まない学校をめざします。世界各地から帰国した生徒一人ひとりにとって、安心できる母校となり、不安や危険を感じた場合、生徒や保護者がすぐに相談できるような信頼関係を育てていくよう教職員一丸となって取り組みます。生徒を取り巻く環境に対応し、小規模校のメリットを活かし、専門機関とも連携して啓発活動や研修を行います。教職員による体罰は厳しく禁じます。

(4) 保健室業務・スクールカウンセリングの充実 ★

生徒の傷病対応や日常の保健室業務に加え、悩み等も安心して話すことができる場となるよう努めています。スクールカウンセラー(臨床心理士)によるカウンセリングルームを開設し、生徒だけでなく子育てに悩む保護者からの相談にも対応します。

(5) 教育全般の自己点検 ★

保護者を対象にアンケートを実施し、PTAの協力を得て学校関係者評価を行い、『南山国際ブリテン』で公開します。日常的に保護者会、PTA活動等を通して寄せられる要望等も含め、自己点検・評価委員会等の各校務組織で分析・検討し、学校運営に反映させます。

(6) 南山学園内連携事業の推進 ★

学園内の単位校と連携を進め、南山学園だからこそできる教育を実現します。南山大学各学部と「学校推薦型選抜入試(指定校入試)」「外国高等学校卒業生等入学審査」等を通して高大連携を進めます。①南山大学外国語教育センターでの英語授業、②大学教員による出張授業・進路学習(総合学習)、③南山学園内オープンキャンパス参加、④教職員研修の講師派遣、⑤本校PTAの南山大学見学説明会などを予定しています。本校で使用しなくなった備品等は、段階的に他の単位校に移譲し、有効に活用します。なお本校卒業生の教育実習は、南山高等学校・中学校(男子部・女子部)、聖霊高等学校・中学校において受け入れます。

(7) PTA活動との連携 ★

PTA予算からの「昼食サービス」、「部活動・生徒会活動」、「防災・教育」、「図書費」、「芸術鑑賞」等への助成、学校祭など各種行事参加等、会員数が減少する中にも学校を支える重要なパートナーとして活動をしていただいています。「南山国際ブリテン」と「PTAだより」も合同で編集します。また、閉校後の残金の活用方法も決定します。コロナ禍により対面でのPTA活動は大きく制限されてきましたが、2022年度は感染対策をしっかりと行いながら、保護者が来校できる工夫を進めます。

(8) 生徒表彰「校長賞」の実施 ★

生徒が努力した成果に対して榮譽を称え、学年から選ばれた生徒1名に「校長賞」を授与します。

(9) 『記念誌』・モニュメント・閉校イベント等の準備 ★

2022年度中の刊行をめざし、国際部時代もふくむ国際校『記念誌』編纂作業を行います。いりなかエリアでのモニュメント建設・国際校記念コーナーの準備を法人本部と相談しながら具体化します。また、閉校イベントについても法人本部および同窓会・アルマ・マーテルと相談しながら実施の準備を進めます。

2. 教育・研究

(1) 教育環境の改善 ★

南山学園の国際的な教育の一端を担い、帰国生徒教育の質の向上を図る教育を継続します。各教科や進路指導において、小規模校のメリットを活かし、個別指導を充実させ、各自の特性をより伸ばさせていくための教育を日常的に行います。また、「南国祭（文化祭）」等の学校行事についても、開催時期も含めて受験準備との両立を図り、感染対策に努めながら、思い出に残るよう実施方法を工夫します。

(2) 宗教教育 ★

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教精神の涵養を図ります。全学年で宗教・キリスト教思想の授業を開講し、多言語による朝の祈り、校内ミサ、南山教会でのクリスマスミサ（2学期終業式も兼ねる）を実施します。

(3) 語学教育 ★

「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学び、表現する」ことのできる高いレベルの語学力を、すべての生徒が修得できることをめざし、習熟度別授業の展開や南山大学外国語教育センターでの英語の授業等の独自の授業プログラム実施とともに、英語検定、TOEFL等の資格取得を積極的に呼びかけます。

(4) ICT教育・情報リテラシー ★

コンピュータを視聴覚教室およびメディアセンターに整備し、授業だけでなく昼休みや授業後の時間に生徒がインターネットを活用できます。2020年度より休校対応もあって本格導入した Google Classroom、PTAの支援により購入した Chromebook やプロジェクタ等を、授業だけでなく生徒会活動、部活動、家庭学習、個別指導、諸連絡等において日常的に活用し、アクティブラーニングを実現します。同時に、個人情報の保護を徹底し、学校関係者すべてを対象に総合的な情報リテラシーの涵養を進めます。

(5) サマースタディ（夏期集中講座） ★

夏期休業期間を利用し、各教科の補習・補充授業、英語検定試験対策、進路指導、入門講座や体験授業等をオンライン方式も含め開講します。

3. 施設・設備

(1) 教室設備等 ★

教育環境や安全性に配慮して点検・補修を実施します。建築構造部だけでなく、非構造部材の安全性も引き続き点検し、必要な修繕を実施します。学校規模縮小に伴い使用していない教室・施設・設備を、「三密」回避を目的として活用します。

(2) エネルギー管理委員会による省エネの検討、実施 ★

夏期の熱中症・食中毒・感染症等のリスクを軽減できるようエアコンを適切に使用しながら、「南山学園環境宣言」を踏まえ、電気使用量の削減に取り組みます。

(3) スクールバス・昼食提供 ★

通学バス交友会役員会の運行計画に基づき、安全で快適な運行を行います。利用者減少に伴い、バスを計画的に聖霊高等学校・中学校に譲渡します。また、PTAからの寄附を活用した冷凍食品のセルフレ販賣や、時々イベントに合わせた販売車等により、安心して昼食がとれるようサポートします。

4. 社会貢献

(1) 学校施設の社会的利用 ★

施設の貸出等を実施し、①近隣の豊田市民（広域避難場所：体育館、グラウンド）、②豊田市ジュニアオーケストラ（練習場所：講堂）など、地域のニーズに応えます。

(2) 地域交流 ★

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、地域の皆さまの学校祭行事への招待・接待や清掃活動

など地域の皆さまとの交流を実践します。

(3) 同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マール） ★

南山高中校同窓会「南山常盤会」、その下で活動する本校母校支援組織である「アルマ・マール」と協同し、生徒、卒業生、PTA に働きかけ、閉校後も視野に入れた教育活動支援の輪を広げます。

以 上

2022年度聖霊高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

1949年に名古屋市中区三の丸で誕生した本校は、2020年度に完成した瀬戸キャンパス内の新校舎で新たな出発を迎えました。南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と本校創立時の建学の精神である「光の子として生活せよ」を中心に据え、多くの人々によって育まれた伝統的な教育を継承しながら、未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校を目指しています。

2022年度に新規で実施する主な事業は次のとおりです。

- ・教職員研修を充実させます。
- ・「創立75周年記念」記念行事に向けて、実行委員会を設置します。
- ・授業補助員の試験的配置を実施します。
- ・部活動全般の見直しを推進します。
- ・新乙女坂に街灯を増設し、生徒玄関前の階段に手すりを新設します。

2022年度に継続して実施する主な事業は次のとおりです。

- ・新キャンパスでのICT教育環境整備計画の実践と検討を行います。
- ・新キャンパスにおける新しい施設設備の確認を進め、さらに今後必要となる機器整備を検討します。
- ・新しい教育課程の完成とともに、各教科の専任教員数を点検し今後の教員採用の計画を検討します。
- ・2022年度聖霊中学校の入試について、入試日程や入試課題等を総合的に再検討します。
- ・生徒利用のスクールバス、本校伝統行事である「EVE, My 青春!」、海外研修など本校の生命線とも言える数々の事業について、更なる改善を検討します。
- ・新キャンパスの構造や校舎管理を前提とした、本校教職員の働き方改革について検討します。
- ・完成した新キャンパスを最大限活用し、教育で「選ばれる学校」となるよう広報活動を強化します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 教職員研修の充実

新教育課程対応等の現職教育や、危機管理や安全教育（AED講習・教職員の防災訓練・刺股など不審者対応訓練）などを計画的に実施します。

(2) 創立75周年記念行事に向けて実行委員会を設置

2024年度に迎える「創立75周年記念」記念行事に向けて、実行委員会を設置します。式典・記念講演・記念行事・記念誌の作成などを計画・準備します。

2. 教育・研究

(1) 授業補助員の試験的な配置

中学1年生数学の授業に、授業補助員を各クラス週1時間、試験的に配置します。授業の円滑な展開や個々の生徒へのきめ細かなサポートを行います。

(2) 部活動全般の見直しを推進

働き方改革の要請も視野に入れながら複数顧問体制を手厚くし、外部コーチの活用を試みます。特に部の廃止に関するルールを確立するなど、部活動全般の見直しを進めます。生徒への安全かつ持続可能な課外活動支援を目指します。

3. 施設・設備

(1) 新乙女坂に街灯の増設、生徒玄関前の階段に手すりを新たに設置

スクールバスのロータリーから生徒玄関までの「新乙女坂」を、下校時に明るくより安全にするために、街灯を増設し、生徒玄関前の階段には手すりを新設します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確認

宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学1年生の修養会から高校3年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の内容の確立を目指します。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、引き続き全教職員で聖霊教育の基本精神の共有を進めます。

(2) 新キャンパスでの新しい教育の構築と新キャンパスの教育的活用 ★

2020年度・2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のための制限を多く受けました。校舎移転を受けて、文化祭・式典などの学校行事、オープンキャンパスなど外来者の来校を伴う企画とともに日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、様々な視点から実施場所、実施要項などを点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を継続してさらに工夫を重ねます。

(3) スクールバスの財政改善 ★

南山学園理事会の助言を仰ぎながら、父母の会やスクールバス聖友会会員との意見交流を進めています。2022年度もスクールバスの財政改善について中長期的計画に則り、保護者からの会費などの収入と、路線の改廃、便数の削減などの支出の両面の課題を合わせて検討していきます。

(4) 「EVE, My 青春！」の継続実施と将来設計の検討 ★

この行事は、本校の伝統行事として2021年度で40回目となりました。2021年度は愛知芸術文化センター・コンサートホールにて多くの来場者に温かく迎えられました。2022年度も引き続き同コンサートホールで開催します。また2021年度に旧もちの木広場（現メディアヒロバ）でイベントも開催することができました。開催場所の確保と実施方法について、ようやくイベントまで含めた当初の計画を実現することができました。伝統を引き継ぎつつ、これまで以上に十分に準備し成功に向けて努力します。

2. 教育・研究

(1) ICT教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

全教室映像配信システム、インタラクティブホワイトボードなどの環境整備、さらには教員用PCの一人1台体制後の活用方法など、ICT教育機器運用を進めました。学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めます。またGoogle・クラスルームの活用や2024年度に生徒1人1台端末の導入を実現するために、計画をより具体化します。

(2) 大学入学共通テストへの対応 ★

過去数年間にわたって変革の時期にある大学入学共通テストへの備えについては、進路指導部の情報収集力を基盤に対応してきました。今後も、大学入学共通テストに対して前年までの動向を踏まえつつ、生徒に対して模擬試験受験を積極的に勧めながら、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、一丸となって生徒の指導にあたります。

(3) 本校における中学・高校の教育課程の改訂 ★

高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習のあり方について校内での研修を進めました。中学生徒募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を更に研究します。

(4) オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し ★

2020年度・2021年度と、オーストラリア海外研修・アイルランド語学研修ともに、コロナ禍によって実施することができませんでした。一方でオーストラリア海外研修では、姉妹校のMSJ校とオンラインによる交流をするなど2年目を迎えることができました。2021年度は、校内実施のプログラムを二つ立ち上げましたが、これらの経験を活かすことでさらに充実した研修となるよう改善を図ります。

(5) 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携のみならず、教科指導などでの教職員間の人的交流などを検討し進めます。南山大学附属小学校での学校説明会と本校での学校見学会を引き続き実施します。

(6) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★

2021年度は、コロナ禍の中でも高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなど実施できました。中学3年生のハローワーク講座も実施でき、貴重なキャリア指導の機会と捉え、さらに充実させて行きます。それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、今後も活動の継続を目指します。

3. 施設・設備

(1) 既存施設設備整備の検討 ★

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進める中で、旧M棟体育館や給水塔設備など、補修や改修の必要性を見極めて整備計画を推進します。

(2) 旧修道院の改修についての検討 ★

新キャンパスと旧修道院は隣接していることで活用範囲は広く考えられるものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について現実的に検討を進めます。

4. 社会貢献

(1) 募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けています。国内外の被災・生活困難地域に向けて生徒会や学年単位での活動、DAC部などによる募金活動を積極的に推進します。

(2) ボランティア活動 ★

日常的なボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索します。また、コロナ禍ならではの活動やそれにかかる支援を行います。

(3) 地域との連携 ★

2021年度もコロナ禍にあって、地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学3年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所への連携協力をお願いすることができませんでした。また、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けてきましたが、実施できませんでした。2022年度は「コロナ禍にあってでもできること」からはじめ、地域の皆様との間でこれまで築き上げてきた関係を今後も大切にしながらコロナ禍後の連携を進めたいと思っています。

5. その他

(1) Web ページリニューアル ★

セキュリティを強化しつつ、より活発な情報発信を行うため、2021年度にWeb ページ全体のリニューアルを進めました。スマートフォンへの対応も意識した新しいデザインとなりました。2022年度に

は、より見やすくセキュアな環境とスピーディーな情報発信を行うためのリニューアルを進めます。

(2) 教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★

2023年度中の完成を目指し、本校の新しい教育課程の準備を進めています。その中で教科ごとの授業数や教員数を点検し精度を上げていきます。引き続き、今後の退職者や学園内他単位からの教員の移籍等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して人事計画を検討していきます。

(3) 校務組織改編についての検討 ★

役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編について検討します。各部署の役割を見直し、併せて勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、退勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からも総点検を進めます。

(4) ICT 機器の教育活動における活用の推進と財政計画 ★

ICT 機器を利用した教育実現のための年次計画（ICT 教育環境整備 5 か年計画）に基づいて、ICT 教育機器の導入時期や導入方法、校内・校外での利用範囲等について慎重に議論を重ね試行錯誤を続けていますが、コロナ禍の影響もあり早期の導入と運用の要請が社会的に高まっています。

一部の機器やシステム、アプリケーションを試験的に先行導入することや外部研修会等を通して授業研究は加速させていますが、「教育の中身として何が発信できるか」「生徒たちにどう働きかけるか」「ICT 機器を使いこなすことができるか」など、ICT 教育の前提として学校として共有すべき課題を一つひとつ解決していきます。

一方で、こうした ICT 教育環境を整備し、かつ維持していくためには、長期的かつ大規模な予算を必要とすることで、補助金を獲得してもなお学校にとって大きな財政的負担となるものであるため、教育効果とそれに見合うコストを見極め、費用負担の在り方を含めた適切な財政計画を検討していきます。

(5) 学校財政の安定化 ★

学納金改定の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面における収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的な目線で中長期および単年度の事業計画立案を進めました。引き続き、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図ります。

以 上

2022年度聖園女学院高等学校・中学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

2022年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響を考慮しなければなりません、そのような中でも、本校にとって喫緊の課題である定員確保、財政状況の改善、および生徒が満足できる学習環境の構築に向けて、これまでの宗教教育や国際教育の伝統を継承しつつ、加速するICT化に対応するための、教育内容・環境の充実を進めます。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・南山学園理事会と密に連携を取りながら、定員確保のあり方を打ち出し、財政改善を目指します。
- ・学校運営上の組織のスリム化と効率化、連携強化を実現するべく、管理職制と分掌を再編します。
- ・英語科内に「国際交流室」を設け、インプットとアウトプットをより系統化させます。
- ・進路先として南山大学をより意識できるよう、南山大学と様々な教育連携を計画、実行します。
- ・校内LAN設備を更新し、安定した通信ネットワーク環境を生徒に提供します。
- ・新しい学校案内パンフレット作成に向けて企画します。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・宗教性・国際性の涵養、課題解決のための総合力の育成を目指します。
- ・ICT機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進めます。
- ・自主的な学習習慣の定着から大学受験指導に至るまで、放課後学習支援の環境を整備します。
- ・現地研修、校内研修を通して、日本の文化や人間の尊厳への理解の深化を目指します。
- ・社会福祉施設でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動を継続します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 定員確保と財政改善

ここ数年に亘り、入学者数が減少傾向にあり、定員不足となっていますが、定員を確保してこそ健全な財政状態となり、教育活動の充実にもつながります。今後の学校運営も含めて、どのように定員を確保していくか、南山学園理事会と密に連携を取りながら、2022年度を通して、その方向性を作っていきます。

(2) 管理職制と分掌の再編

2020年度より検討を進めてきた、これからの学校運営における組織のスリム化と効率化、連携強化を実現するべく、「宗教部」と「国際交流部」を発展的に解消し、「教務部」・「進路指導部」・「生徒指導部」・「入試広報部」・「校務部」の5部体制とします。

2. 教育・研究

(1) 国際教育の充実 ★

「国際交流部」を「国際交流室」に改めて英語科の一部として編成し、インプットとアウトプットをより系統化させます。2020年度、2021年度に中止したカナダ研修、ニュージーランド中期留学を可能な限り実施に向けて進めるとともに、中止となった場合の代替プログラムについても並行して計画します。

(2) 南山大学との教育連携の強化

これまでも夏季休業中を利用して南山大学教員による出前授業が行われていましたが、2022年1月に、海外留学を経験した南山大学学生との交流プログラムを開催しました。進路指導の一環として、南山大学との教育連携を強化し、各種プログラムを通して、本校生徒がより南山大学を知り、関心を高めるようにします。

3. 施設・設備

(1) 校内 LAN 設備の更新

文部科学省の GIGA スクール構想を背景として、本校の ICT 教育を図るためには、全校生徒に貸与している iPad のインターネット接続の不具合を解消し、通信品質の一層の向上が不可欠です。2021年度に調査した現況設備の接続状況をもとに、校内 LAN 設備の更新を行います。

4. その他

(1) 新学籍管理システム導入準備

2022年度に向けて導入を進めていた新学籍管理システムですが、学園全体のポリシーと齟齬がないよう、より慎重な検討が必要と判断し、導入年度を2023年度に変更しました。十分なセキュリティを備えたシステムの導入に向けて、再度準備をします。

(2) 学校案内パンフレットの更新

2019年度から使用している「踏み出す人に」をイメージした学校案内パンフレットが4年目となったことで、2023年度から使用できる新しいパンフレット作成を2022年度中に企画し、最新の聖園女学院の様子を広報できる準備をします。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 宗教性の涵養 ★

年3回のミサ、講堂朝礼での祈りと聖歌および5月と10月のロザリオの祈り、クリスマススタブロー・クリスマスキャロルを含むクリスマス行事など、本校での伝統の宗教行事を通して、生徒の宗教性を涵養します。

(2) 国際性の涵養 ★

海外研修（ニュージーランド中・長期留学、カナダ短期留学）、Misono English Academy, Advanced Class of English、海外からの留学生受け入れなどを通して、生徒の国際性を涵養します。

UPAS (University Pathway Admission Service) 加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行います。進学に必要な奨学金制度についての説明会も実施します。また、在学生にはスタンフォード大学およびシリコンバレーでSTEAM教育を体験できる海外研修プログラムを紹介し、参加を促します。2022年度も新型コロナウイルスの感染状況により、オンラインを利用した実施となる可能性もあります。

(3) 留学支援のための奨学金制度

2019年開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napierでの1年留学および2014年度から実施しているニュージーランドでの中期留学に、引き続き給付型奨学金を支給します。生徒・保護者への負担の軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動へのPRにもなっています。

(4) 総合力育成 ★

課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指します。中学生の総合的な学習の時間では、学びの基本技能である「調べる・まとめる・表す」の力を高めることをテーマとします。高校生の総合的な探究の時間では、課題解決の基本技能である「対話・提案・

質疑応答」の力を高めることをテーマとします。

(5) ICT 活用 ★

2020 年度に高校棟、2021 年度に中学棟のすべての普通教室にプロジェクタが設置されました。これを機に、各教科の特性に応じて、ICT を活用した教育法を研究する中で、ICT 機器を積極的かつ適切に利用するための研究、実践を進めます。

(6) 放課後学習支援 ★

自主的な学習習慣を定着させるために、平日 18 時まで授業の予習復習、宿題を始め、検定試験、大学入試に備えた学習環境を充実させます。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による事前指導により、より効果的な活用を促します。また、2021 年度に利用生徒の入退室を管理する入退室システムを導入したことで、生徒が参加しやすくなるとともに、保護者にとっても安否確認の一助となっています。

高校生を対象とする受験支援については、2022 年度からは、英語・数学・国語の主要 3 教科に絞り、進路実現に向けて、外部講師による希望者への大学受験指導の講座を実施します。

2. 教育・研究

(1) シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022 年度の高校学習指導要領改訂に伴い、指導と評価の一体化を目指した授業の評価とあり方を研究します。

(2) 補習・講習・自習 ★

長期休業中の補習・講習・自習について、これまでの反省点を活かすとともに、教科横断型など様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えます。

(3) 現地研修・校内研修 ★

中 3 全員が 2 泊 3 日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を行います。また、高 2 全員が 3 泊 4 日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを深めるための研修を行います。中 1 の祈りを中心とした校内研修、中 2 の鎌倉研修、高 1 の「愛といのち」の研修、中 1・2 の、「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを継続します。さらに、2022 年度より、中 1 の「礼法研修」を実施し、相手を思う心を作法というかたちで表し、人間関係を円滑にし、各自が女性として品格を身につける基本を学びます。

これらは、いずれも新型コロナウイルスの感染状況によっては、日程および場所の変更を余儀なくされることもありますが、そのような中でも目的を見失うことのないよう取り組んでいきます。

(4) 聖園祭・球技大会

生徒会活動の一環として学校行事を継続します。球技大会委員会を中心に 2 日間、中・高別にクラス対抗で、球技大会を実施します。勝敗にとらわれず、クラス、学年の連帯感を強めることができます。また、聖園祭企画実行委員会を中心に、聖園祭を 2 日間実施します。委員会による企画・運営により、日ごろの成果を発表する機会を提供し、実践的な社会性を育む教育的効果を目指します。ただし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実状に合う形で検討、実施します。

(5) 芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とその円滑な実施に努めます。

(6) 教員研修

年一回外部講師を招き、学校運営に必要な研修を行います。2022 年度は「情報セキュリティ」をテーマに実施することが決定していますが、加えて、厳しい状況に置かれている今だからこそ、学校という組織の中でどのように働くべきかを今一度問いただすために、個人情報保護、コンプライアンスといったテーマの研修も実施します。また、生徒募集につながる経験を持った識者を招き、

教員の意識改革と教育の質の向上を図ります。

3. 施設・設備

(1) 省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り組みを継続して行います。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動で、自ら進んで環境美化に努める意識を育みます。

4. 社会貢献

(1) ボランティア活動

生徒が主体的にボランティア活動に参加し、取り組めるようサポート体制を作るとともに、社会福祉への関心を高め、活動を通して学びあい、「たすけあいの心」を育みます。主な活動として、みこころ会と生徒会が中心となり、社会福祉施設（聖園子供の家、小さき花の園および藤沢育成会など）でのボランティア活動、被災地支援のための募金活動（震災募金・歳末助け合い募金・共同募金）を継続して実施します。また、高1は、10月に奉仕活動の一環として、「赤い羽根共同募金（街頭）」活動に全員参加します。その他、聖園祭での純益金を社会福祉活動、国際協力援助のために寄附します。

中1のコミュニケーション研修プログラムでは、「国際的な支援活動」に関する講話から実状を学び、自身の行動目標やSDGsの総合的な学習の取り組みにつなげます。

ただし、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、実状に合う形で検討、実施します。

5. その他

(1) 神奈川私学修学支援センター利用

登校困難な生徒への支援を目的とした神奈川私学修学支援センターの利用により、卒業を目指した学習活動が継続できるよう、センターと連携し、支援を継続します。

(2) Webによる出願

Webによる出願、入学金納入に関するシステムを継続します。現金取り扱いのリスクを低減するとともに、より多くの受験生確保に努めます。

(3) 積極的な入試広報活動 ★

校内外の説明会・見学会・外部模試の実施、塾訪問、youtube・facebookを始めとしたWebページの充実と最新情報の発信、入試過去問題集の出版・書店販売など、定員確保のために努めます。

(4) 試験採点システム導入準備

試験採点の効率化および試験結果の有効活用のため、いくつかのシステムを比較検討し、導入に向けて準備をします。

(5) 中学入試期間中の緊急時対応体制の整備

地震、大雪などによる試験開始時の延期等を受験生および受験生保護者に迅速で分かりやすく伝えます。また、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化します。

(6) 他校との交流 ★

南山大学を中心とした南山学園の各単位校および県内カトリック校との交流を活発にし、校内の活性化と広報活動へつなげていきます。

以上

2022年度南山大学附属小学校事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

本校は、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2022年度も引き続きこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく育てます。特に2022年度は、2020年度末から続いているコロナ禍での児童の学習継続のあり方について、家庭との連携を密に取りながら考えます。また、本校が南山学園共通の教育モットー「人間の尊厳のために」を実現するために存在していることを忘れず、児童がいっそう生き生きと学習に取り組み、学校生活を送ることができるようにします。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・2021年度進められなかったSt. Brigid's Catholic Primary Schoolとの姉妹校提携を準備します。
- ・これまでの宿泊学習に代わる宿泊学習を実施します。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・「南山小学校ならではの学習」を展開します。
- ・学園内連携推進協議会のもと、大学・高校・中学との連携の継続を図ります。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) St Brigid's Catholic Primary Schoolとの姉妹校提携に向けて

コロナ禍以前の第6学年で実施していた海外研修(シドニー)では、隔年でSt. Brigid's Catholic Primary Schoolとの交流を行ってまいりました。持続的に相互交流活動を実施していくことで一致しており、Our Lady of the Angels Primary School(2019年度提携校)に引き続き、今後、St. Brigid's Catholic Primary Schoolとも姉妹校提携を結ぶ予定です。姉妹校提携に向けて準備を進めます。

(2) 感染状況に対応した宿泊学習の実施

新型コロナウイルス感染状況に応じて、できる限り宿泊学習が実施できるように、調査・準備を進めます。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 家庭との連携

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。そのため、本校の教員が講師となり保護者と交流する活動に力を入れます。

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行います。

保護者への連絡を丁寧にし、保護者との連携をさらに深め、児童の学校生活や家庭生活がともにより豊かなものとなることを目指します。本校の考えをよりよく理解していただくとともに、保護者の

考えも理解できるようにします。保護者アンケートを踏まえて、改善に向けて真摯に取り組みます。

2. 教育・研究

(1) 学習指導

2018・2019年度に開催した「真教育」研究会（研究テーマ『あなたと私』をいかし学び合う授業の創造）の経験を生かして、2020・2021年度は、一人ひとりが「真教育」の精神に根ざした学習指導の具現化を図るために、個人研究に取り組みました。2020年度は、新しい学習指導要領のもと、「わかる」「できる」「考える」すなわち、「学ぶ」喜びを感じられる授業づくりを目指しました。2021年度は、「書く活動」を重視した取り組みを通して、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指しました。2022年度も引き続き、日々の授業の中で、児童一人ひとりが互いの良さや持ち味を尊重しながら、学びを深めていく力と姿勢を育む学習指導のあり方を探究します。

(2) 英語教育

2022年度も、コミュニケーション能力の育成と実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねます。また安心して英語にふれあうことができる環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を授業時間以外にも多様に展開します。

(3) 海外研修旅行と学校間交流 ★

国際的視野の育成および国際性涵養の一環としての研修旅行や、海外の学校との交流の実施を継続しています。2019年7月には、2017年度に交流した学校(Our Lady of the Angels Primary)を本校児童18名が訪れ、授業への参加、ホームステイ、現地の方との交流等を行いました。姉妹校提携の調印も行いました。2022年は、2018年度に交流した学校である St. Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて準備を継続していく予定です。

2019年度には台湾聖心小学校から本校への訪問があり、行程を改善し、一層の協力関係を築くことができました。また、2021年度は、オンラインでの交流を実施しましたが、2022年度も何か交流活動を行う予定です。今後も姉妹校として、安定した協力関係を築いていきます。

(4) 生活指導

2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行ってきましたが、2022年度も、その状況に応じた対応を行います。

生活時程改定による休み時間の過ごし方については、生活の重点目標として示しましたが、今後も指導を行っていきます。児童が自ら、よりよい学校づくりを目指していくことができるような取り組みを継続していくことが大切だと考えます。

また、ランチや清掃活動を通常に戻すための準備と指導が必要です。ランチルームの使用や縦割り活動が円滑に進むよう取り組みます。

さらに2022年度入学児童より、より衛生的な使用のためエプロンを長袖つきのものにしたり、指導教員に児童名がわかるように体操服に名札を付けたりしました。今後毎年、入学児童に導入します。

(5) 中学接続に係る取り組み

本校で目指す子どもの姿と中学校進学にあたり必要な学力・生活態度の両面の資質が一致するよう、情報機器の導入をはじめ、授業改善に努めました。また、必要な学力に達しない児童への個別の声をかけを繰り返し行い、意識改善を手助けするとともに、家庭の協力体制を促す指導をしました。2022年度も中学接続について、早い段階からのアプローチと、個別指導に力を入れ、家庭と対話しつつ細かな対応ができるようにします。

(6) 大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図っています。2022年度入学試験では、これまで以上に多くの先生方にご協力いただきました。学生による入試業務補助も継続しています。一方、新型コロナウイルス感染拡大を受け、縮小したり、見送った

りした事業も多々ありました。宿泊学習・校外学習での訪問や生徒クラブによる演奏披露、単位校見学、南山大学留学生の小学校訪問などです。

2022年度も感染状況を見ながら、適切な時期に適切な方法で連携事業を推進していきます。中学・高校教員との合同研修会についても検討します。

(7) 児童の自治的活動

2021年度、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中でも、代表委員会の挨拶運動をはじめ、いくつかの委員会は、創意工夫をして常時活動や活動の企画を行うことができました。

2022年度は、より多くの委員会が、生活や文化の向上をめざした活動ができるように、指導計画の検討や指導の共通理解を図ることから指導の改善を進めます。

(8) 児童の安全の確保

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、登下校時の自動車送迎を一時的に認めました。公共交通機関を利用する際には、「家庭」「保護者会わかみどりのの方の見守り」「学校」との協力連携が、ますます必要です。連携を充実させ、児童の安全確保の強化につなげます。

また、2021年度は小2、小3のキッズ防犯プロジェクトを実施しました。児童自らが自分の命を守る術を知ることができる体験活動ですので、継続して取り組みます。

一カ月に一度、グラウンドの設備点検を行い、その都度整備しました。児童の安全確保を図ってききましたが、その状況を教員に周知し、児童の生活の仕方とつなげていけるような指導をします。

(9) 教師力の向上 ★

2021年度は、2020年度取り組んだ個人研究の中で明らかになった成果と課題の中でも、特に「書く力」に注目し、自分の学びを豊かに表現することができる子の育成を目指した研究に取り組みました。その成果と課題を明らかにし、2022年度も個人研究を積み上げ、授業力をさらに高めます。それぞれの研究内容の交流を、教科内に限らず様々なメンバーで行うことで、新たな気づきを得られるようにします。また、2021年度より導入された、新たな学習環境（4年生以上のタブレット利用）を意味あるものにするために、ICTを効果的に活用する研修を行います。これまで大切にしてきた「真教育」に根ざした学びを実現するためのICTの効果的な活用方法を探ることを通して、「南山小学校ならではの学び」の発展に向けて、視野を広げます。

3. 施設・設備

(1) 校内施設の改装

グラウンドに新たに倉庫を設置し、児童が遊具を安全に使用したり、教員が快適に道具を使用したりできるようにします。また、校内施設の修理・点検を継続して行います。

4. その他

(1) 広報活動

2021年度は、本校Webページも新体制に合わせ、部分的にリニューアルしました。積極的に校内トピックスの発信、入試情報の発信を含め活用することができました。紙媒体からネットワークへ移行した今、ネットワーク活用の重要度がさらに高まっています。本校に関心のある保護者も、まずは本校のWebページを確認しているようです。また、コロナ禍が収束していれば、保護者の皆様に来校していただき、本校のリアルな体験をしていただきたいと思います。学校説明会、年中幼児保護者対象の学校説明会、入試説明会など、より多くの機会を作り来校していただき、本校の良さを伝えます。

さらに、マスメディアの活用としては、幼稚園・保育園対象の雑誌へ学校紹介の記事を掲載するとともに学校説明会の折り込み広告を入れること等を継続して行います。2022年度も、コロナ禍が続くことも考えられ、ネットワークの活用を取り組むべき広報活動とします。さらに入試についてもオンライン出願を実現させていくなど、積極的にネットワークの活用を心がけます。

(2) 保護者への教育相談の広報および教育相談事業

2022年度も、教育相談担当者へ教育相談予約ができる体制、南山大学保健室から助言を受けられる体制を継続します。さらに、南山大学人間関係研究センターと連携し、子育て支援講演会と子育て支援グループの会合を定期的を実施します。継続している事業のため、保護者の教育相談予約に対しての認知度も高く、利用者が増えてきています。

また、子育て支援講演会を開催し、子育て支援グループについても再募集します。教育相談活動についても継続していきます。

(3) 地域との連携 ★

2021年度は新型コロナウイルスの影響で連携が縮小していましたが、それ以前では、アフタースクールのリコーダー講座や箏講座、聖歌隊が地域の祭りで発表を行ったり、商店街の方に地域清掃に参加していただいたりするなど、「いりなか商店街」や「八事商店街」との連携が定着しています。「南山小見守り隊」も地域の方の新規登録を継続して募集しています。

生活科や社会科の学習なども地域の方とふれ合う活動を大切にし、児童の地域への感謝の気持ちが高まることを目指します。地域社会の一員としての奉仕の心や地域を愛する心も育みます。このことが、児童の安全確保にもつながると考えます。地域の小学校とも連携し、地域社会の中で共に児童を育てます。

以 上

2022年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

2022年度に創立80周年を迎えることの意味を教職員全員が意識し、これまでの伝統を尊重、維持しつつ、新たな課題に挑戦し、共同で解決していく力を園児に身につけさせます。そのために、自立心・道徳心・思考力を養い、言葉によって伝える力をつけるなどの、園児個々の能力を高めていく環境作りを整備します。

また、園児の安定的な確保に向けて、正課保育はもちろん、預かり保育、プレ保育、満3歳児受け入れおよび課外活動のあり方の確認ならびに改善を進めます。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直す必要があるかと思いますが、園児を始め、教職員および保護者の安全・安心を心がけながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を進めます。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・園児と教職員を対象とした創立80周年記念事業を実施します。
- ・教職員が快適な環境で保育や業務に従事できるよう、園舎空調機器を更新します。
- ・遊具の安全性向上のため、登はん棒を更新します。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続します。
- ・聖園女学院高等学校、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園との教育連携を継続します。
- ・保護者との協力体制をより一層深め、子育て支援の援助を継続します。
- ・クリスマス献金や老人ホーム訪問など、社会貢献や地域貢献を継続します。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 創立80周年記念事業

2022年に創立80周年を迎え、在園児と教職員を対象とした記念式典を開催します。これまで多くの方々を支えられてきたことに感謝し、自らがこれからの歴史を作っていくという思いを培います。その他、桜の植樹、ドローンによる撮影も行います。

2. 施設・設備

(1) 園舎空調機器（職員室、事務室、会議室系統）更新

園舎建築時より30年以上が経過し、2018年に実施した省エネルギー診断でも性能低下により消費電力増加の懸念が指摘されたことから、空調機器を更新し、省エネおよび適切な職場環境を整備します。

(2) 登はん棒更新

現在の登はん棒が設置から27年経過しているため、園児の怪我防止の観点から登はん棒を更新するとともに、既存遊具全体の配置を変更して、より安全な遊戯環境を整備します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 教育プログラムの見直しの継続

本園の教育目標は、キリスト教世界観に基づき、学園共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を尊重し、幼児期に必要な心身の調和の取れた人間の育成を目指しています。新たな課題に挑戦し、幼児の幅広い能力を高めていく環境作りを継続していくとともに、幼児の体力増進に向けて一層の体育強化に取り組みます。また、国際性の涵養のため英語を他者理解のツールとして楽しく学べる環境作りを引き続き行うために教育プログラムの充実を図ります。さらに、学園内連携として、聖園女学院高等学校の高1家庭科での保育実習を引き続き行い、総合学園だからこそできる活動を一層深めます。

(2) 保護者との協力体制

社会情勢が混沌とした傾向にある現代だからこそ、聖園幼稚園の教育方針をクラス懇談会や個別面談などの機会を通してきめ細かく伝え、園と家庭との協力により「心の通い合うつながり」をもって、子どものより良い育ちを援助していく体制を続けます。

(3) 危機管理体制の継続

園児の安全確保のために、今後も来園時や送迎時における保護者カードを携帯するよう保護者へ要請します。また、新型コロナウイルス感染症対策については、2020年度に整備した次亜塩素酸空間除去脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続します。

(4) 子育て支援に関する援助 ★

保護者の要望を受け導入した預かり保育や給食提供、満3歳児受け入れを今後も継続し子育て支援を行います。預かり保育では、家庭教育の温かさを保ちながら、園児に無理のないカリキュラムに沿った活動を展開します。また、給食については、園児の健康や安全面を配慮した提供を継続します。

2. 教育・研究

(1) 季節の行事に触れ、体験する知的理解教育の促進

季節の行事に触れることは、幼児教育での知的理解において重要な意味を持ちます。四季を通して行事に触れ、また、体験させることで、より興味・関心が持てるよう取り組みます。

(2) 宗教性教育の促進

イエスの降誕を表現する劇（聖劇）を通して、園児の表現力を培うとともに、神の愛を知り、すべての人を愛する心を育みます。

(3) 絵本の充実

絵本を充実させ、貸し出しを行うことで、園だけでなく家庭でも多くの作品に触れさせ、感性や思考力の基礎を培います。

(4) 戸外遊び・活動の充実

多人数での体育遊びなど、戸外における遊びや活動を充実させ、体力はもちろん、協調性を培います。

3. 社会貢献

(1) プレ保育の実施 ★

2019年10月より未就園児とその保護者を対象にプレ保育を開設しました。保護者が子育ての悩みを保護者同士で分かち合い、園の教員に相談する場として、実施を継続し、子育てにかかる地域のサポーターとして機能することを目指すと同時に、次年度の入園につなげます。

(2) クリスマス献金 ★

「世界のお友だちのために」とクリスマス献金を行うことで、世界には恵まれない子どもたちがいることを知ることや、自らの献金により救われる命があることと命の大切さを学ぶことで、社会的視野を広げる教育を続けます。

(3) 勤労感謝 ★

スクールバスの運転手や地元の警察官、地域の清掃車の職員の方々などへの感謝を、自分たちの作品を贈るという形で表しています。日常生活は多くの方々の陰の力で成り立っていることに気づき、感謝する気持ちを育む教育を続けます。

(4) 修道院への訪問 ★

聖心の布教姉妹会修道院へ園外保育などで訪問します。「いつでも どこでも だれとでも」というカトリックの雰囲気を感じ、纏うことで、将来の多様化するグローバル社会に柔軟に対応できる素養を培います。

(5) 老人ホームへの訪問 ★

老人ホームへ訪問し、歌の発表のプレゼントを行っています。地域の方々とのふれあいを通して、他者の喜びが自らの喜びへとつながることで、他者のために生きるという将来のキャリア教育につながります。

(6) エコキャップの回収

「世界の子どもにワクチンを」という願いのもと、家庭からの協力を得て使用した飲料水のキャップを回収し寄附を行っています。自分とは違う環境で生活している子どもたちが世界にいることを知り、自分に何ができるかを考えさせる教育を続けます。

以 上

2022年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業計画

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2022年度事業計画の概要

本園の特色「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切にできるよう園児に伝えるとともに、心身のバランスのとれた成長を促すために園児一人ひとりを育てることを心がけていきます。また、園児を安定的に確保できるよう、これまで以上に保護者ならびに見学のために来園した方々の声に耳を傾け、選ばれる幼稚園となるよう、本園のあり方を確認し改善することに努めます。

新型コロナウイルス感染状況を注視し、これまで行ってきた事業全体あるいはその実施方法を見直す必要があるかと思いますが、園児を始め、教職員および保護者の安全・安心を心がけながら、可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を進めます。

2022年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・預かり保育利用時間を延長するとともに、希望選択制による給食を導入します。
- ・満3歳児クラスに入園しやすくなるよう、教育充実費の入園月に応じた減免制度を導入します。
- ・小型スクールバスを1台購入し、バスコースを増やすことで通園の利便性を高め、園児確保につなげます。
- ・広い園庭を利用して、課外サッカー教室を開設します。

2022年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・新型コロナウイルス感染防止を含めた、園児の安全・安心を守るための危機管理体制を継続します。
- ・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」を継続し、園児募集につなげます。
- ・聖心の布教姉妹会修道院やシニアホームに園児の作品を届け、日頃の感謝の気持ちを伝えます。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 預かり保育利用時間の延長ならびに希望選択制給食の導入 ★

2021年度に、預かり保育ならびに給食についての利用のニーズを探るためのアンケートを、保護者を対象に行った結果、預かり時間の延長や給食導入について一定のニーズがあることが分かりました。以前より、預かり保育の内容が幼稚園を選ぶ際に大きく関わっていることから、2022年度より、預かり保育時間をこれまでの16時30分から17時30分に延長し、仕事を持つ保護者の預かり保育利用を促進するとともに、園児確保にもつなげます。また、希望者が利用できるような給食を導入し、就学前の給食体験を含めた食育の充実を図るとともに、保護者のお弁当作りを軽減することで、同様に園児確保にもつなげます。

(2) 満3歳児クラスの利用促進

今後も園児確保において重要となる満3歳児クラスは、満3歳となった翌月から入園することができます。そのため、利用者にとっては必然的に年度途中からの入園となります。利用者の経済的負担を軽減するべく、教育充実費（年額38,000円）を、満3歳児クラス入園者に対しては入園月に応じて減免することで、満3歳児クラスへの入園を促進し、園児確保にもつなげます。

2. 施設・設備

(1) 小型スクールバスの新規導入 ★

例年、園児数の約6割の利用があるスクールバスについて、現在2台（4コース）運行しています

が、車両の大きさにより、道が細い住宅地などには入ることができませんでした。小型のバスを1台導入することでより細やかなバスコースを設定し、通園の利便性を高めることはもちろん、園児確保にもつなげます。

3. その他

(1) 課外サッカー教室の開設

感染症や事故等に十分対策しつつ、これまでの体操教室に加え、本園の広い園庭を活用して、新たに課外でのサッカー教室を開設する予定です。対象者は在園児と卒園児（小学生）とし、利用者に新しい課外活動の機会を提供するとともに、園庭での活動により、幼稚園への愛着も高まることを期待します。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続

2020年度に整備した次亜塩素酸空間除去脱臭機小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを今後も活かし、消毒などの日々の取り組みも含め継続していきます。園医との連携も強化し、園での対策や保育の様子を、Web ページ等を利用して発信するとともに、園児や保護者が安心した幼稚園での生活を送ることができるように努めます。

2. 社会貢献

(1) 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催

未就園児対象「ひよこらんど」参加者の過半数が次年度に入園している実績を見ても、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることが分かります。同時に、コロナ禍で外出も未だままならない中、家庭でどのように過ごしたらよいか悩んでいるという保護者の声が聞かれます。新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、「ひよこらんど」開催を継続し、子育ての悩み相談をしやすききっかけを提供し、充実させます。

(2) 地域の方々への感謝 ★

新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問することを控えていますが、園児が正課で作成した作品を届けるという形で表しています。

以 上